

取扱説明書及び部品表

Takakita

オートラップマシーン

WM1121



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず組付け要領書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本組付け要領書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**オートラップマシン**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	17
各部の名称とはたらき	18
トラクタへの装着	20
1. 装着のしかた	20
2. ユニバーサルジョイントの取付け	20
3. コントロールボックスの接続	21
運転に必要な装着の取扱い	22
1. フィルム装着	22
2. テーブルスピードの変更	25
3. フィルム伸び率の調整	25
4. タイアンドカットにフィルムをはさむ	26
5. 巻数設定	26
6. キャスターの固定	26
7. コントロールボックス	27
8. 手動バルブの取扱い	35
作 業 方 法	36
1. 作業手順と要点	36
2. 自動運転を行う	38
3. 手動運転を行う	39
4. 移動時の注意	41
5. 収納時の注意	41
作業前の点検について	42
簡単な手入れと処置	43
1. 油圧作動油について	43
2. チェンの調整	43
3. タイアンドカットの調整	43
4. センサエラーと調整	44
5. コネクタの保管と清掃について	46
6. タイヤの空気圧	47
7. ゴムロール	47
オプション部品について	48
1. リモコンアタッチの各部名称とはたらき	48
2. リモコンの取扱い	49
3. リモコン作業手順と要点	50
4. バックモニターアタッチの各部名称とはたらき	56
5. トラクタへの設置	57
6. バックモニター作業手順と要点	57
不 調 診 断	59
付 表	62
1. 主要諸元	62
2. 電装回路図	63
3. 保安部品電装回路図	64
4. リモコンアタッチ電装回路図	65
5. バックモニターアタッチ電装回路図	65
6. 油圧回路図	66

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

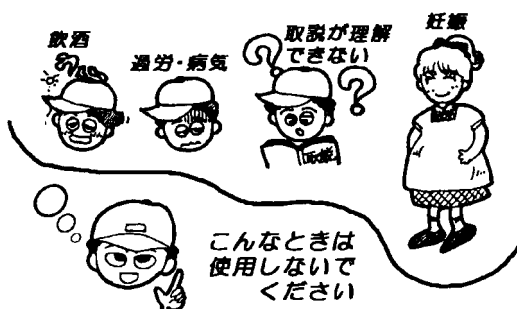
機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

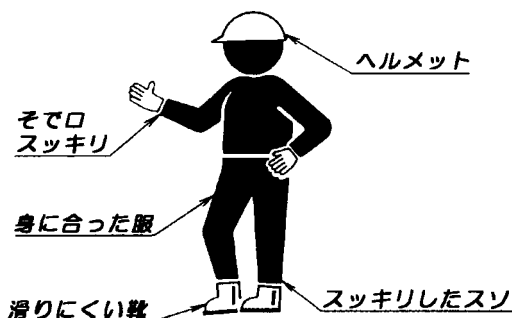
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力

型 式	馬力 kW(PS)	装着方法
WM1121	22.1~44.1 (30~60)	3P直装

● 3点リンケージ規格 : カテゴリ I・II

● 電源用バッテリー : DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

3点リンケージに装着して持ち上げたときに、総重量の20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウェイトを取付けて、20%以上を確保してください。できなければ装着しないでください。

(5) バランスウェイトの取付け

トラクタのバランスウェイトは、指定の部分に指定のウェイト以外は取付けしないでください。

(6) 装着後の注意

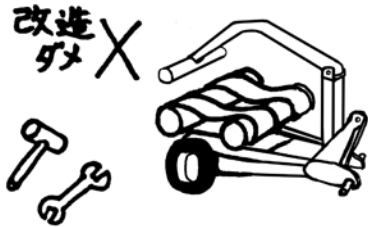
トラクタ装着後、作業機が接地した状態で移動、または作業を行ってください。守らないと破損の原因となります。

⚠ 安全に作業するために

(7) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。



(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

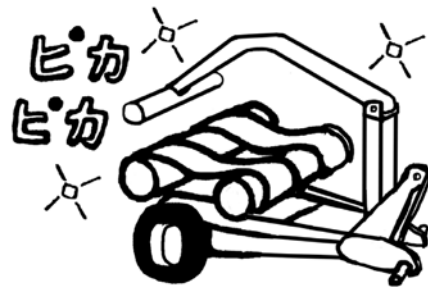
(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でPTOを切り、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取り除き、機械を常にきれいに維持してください。



(5) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

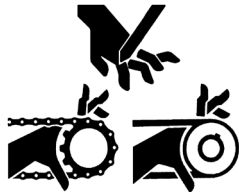
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



⚠ 安全に作業するために

(6) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。
また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(7) 注油・給油するときは

PTOを切り、エンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。



(8) ナイフに注意すること

ナイフ類は絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。

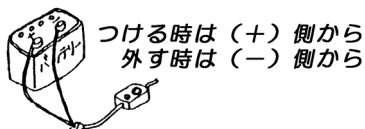


(9) コントロールボックスの電源脱・着

トラクタのバッテリーより電源を取出します。その取付け方法は、(+)側から行ってください。

外す時は、(-)側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。

(詳細は本文のP21『コントロールボックスの接続』を参照してください。)



(10) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。
コントロールボックスはトラクタから取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



(11) タイヤの点検・修理をするときは

- ①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。
- ②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- ③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。
タイヤ破損の恐れがあります。
- ④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店へ依頼してください。



◆本機に装着している

タイヤのサイズと規定空気圧

タイヤサイズ

22×850-12 4PR

空気圧 157kPa以下

(1.6kg/cm²以下)

⚠ 安全に作業するために

3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



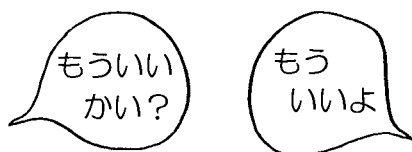
(2) エンジンを始動するときは

P T Oを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) ストレッチフィルムの交換や

草の巻きつきを取除くときは

P T Oを切り、エンジンを必ず停止してから行ってください。



(5) 回転中のユニバーサルジョイント

には触れない

回転しているユニバーサルジョイントに手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれて傷害を負うことがあります。



(6) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。

(7) エンジンは低速回転で

ラップをする時は、P T O回転を必ず $370 \sim 400 \text{ min}^{-1}(\text{rpm})$ の範囲にしてください。

⚠ 警告

P T O回転を $400 \text{ min}^{-1}(\text{rpm})$ 以上で作業しないでください。高速回転にするとロールベールが飛び出したり機械が振動したりして大変危険です。

また、油圧ポンプのオイル漏れ、故障につながる可能性があります。

⚠ 安全に作業するために

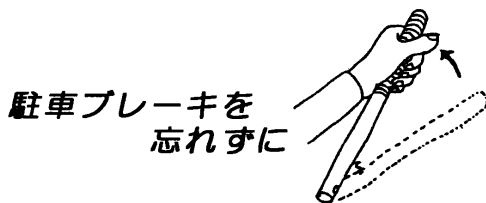
(8) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ① 斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。
- ② 傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。
- ③ 傾斜地で荷降ろしするとバールが転がり、巻き込まれてケガをすることがあります。荷降ろしは、平坦な場所で行ってください。

(9) 作業途中で運転席より離れるときは

平坦な場所に停止し、PTOを切りエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、本作業機側に車止めをしてください。



(10) 移動するときは

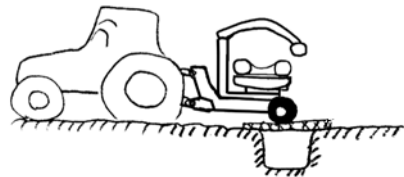
アームを最も下げた状態にしてください。上げたまま移動すると、障害物にぶついたり、電線を引っかけて感電する恐れがあります。

(11) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

ゆっくりと



4. 輸送するときは

(1) トラックなどへの積み込み・降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。

以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

公道走行するときは

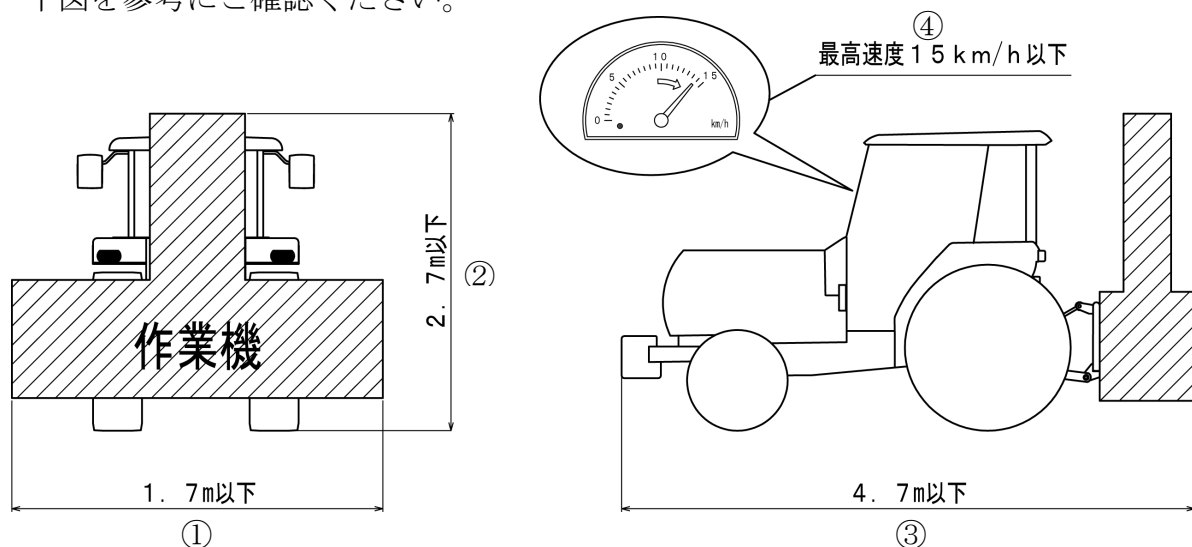
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、直装タイプの作業機で公道を走行することができます。公道走行をする際は、下記項目を確認したうえで必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタ単体の場合、道路運送車両の技術基準(保安基準)の適合性を確保できる農耕トラクタであれば小型特殊免許/普通免許及び大型特殊免許(農耕用に限るも、含む)で運行可能ですが、トラクタに作業機を装着した際に①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ① 全幅1.7m | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレームは2.8m) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。



(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

	農業用小型特殊自動車	農業用大型特殊自動車
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを <u>すべて超えない</u> 場合	公示一括緩和を適用した車両として申請や登録は必要ありません。	全国の運輸支局等で検査登録が必要です。
トラクタに作業機を装着した時の寸法が、全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを <u>いずれかを超える</u> 場合	- 全長12m、全高3.8mのいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 - 道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。	- 検査登録が必要です。 - 全長12m、全高3.8mのいずれかを超える場合は、地方運輸局長に個別緩和を申請する必要があります。 - 道路管理者から特殊車両通行許可を得る必要があります。

⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～④を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①作業機最外側からトラクタの灯火器類までの距離

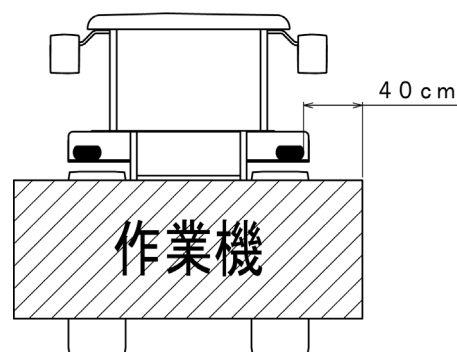
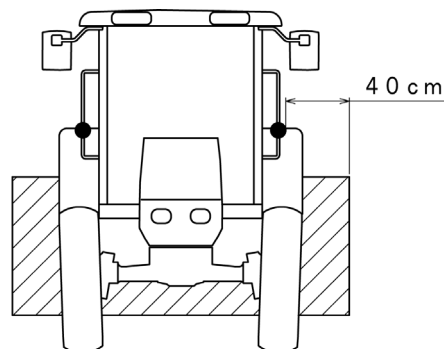
トラクタの後退灯以外の灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内にある。

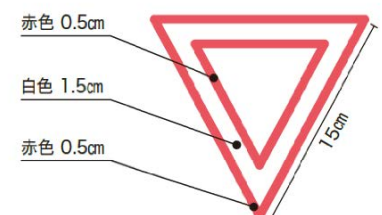
YES

NO

①での追加装備は必要ありません。

前面:A.白色反射器
後面:B.赤色反射器
C.制限標識
を取付ける必要があります。



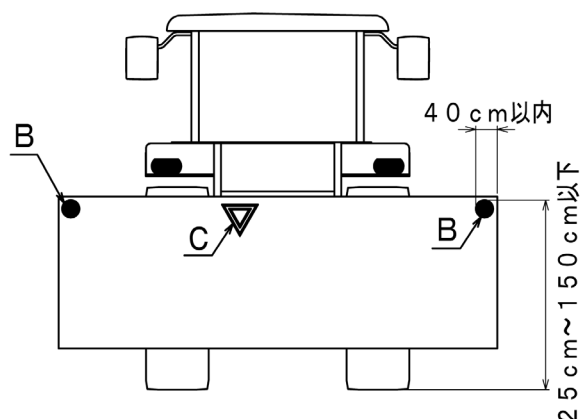
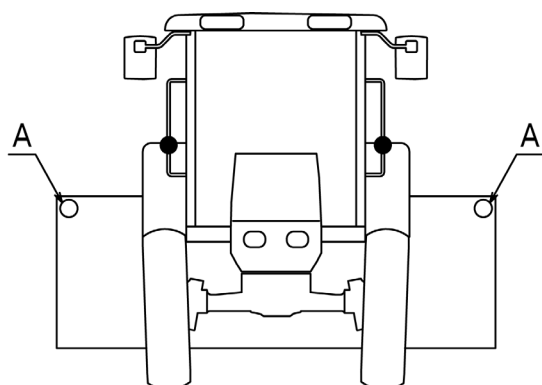
A.白色反射器	B.赤色反射器	C.制限標識
		 赤色 0.5cm 白色 1.5cm 赤色 0.5cm 15cm

●装備の取付け位置

道路運送車両法の保安基準により、各種灯火器類取付け位置が定められています。

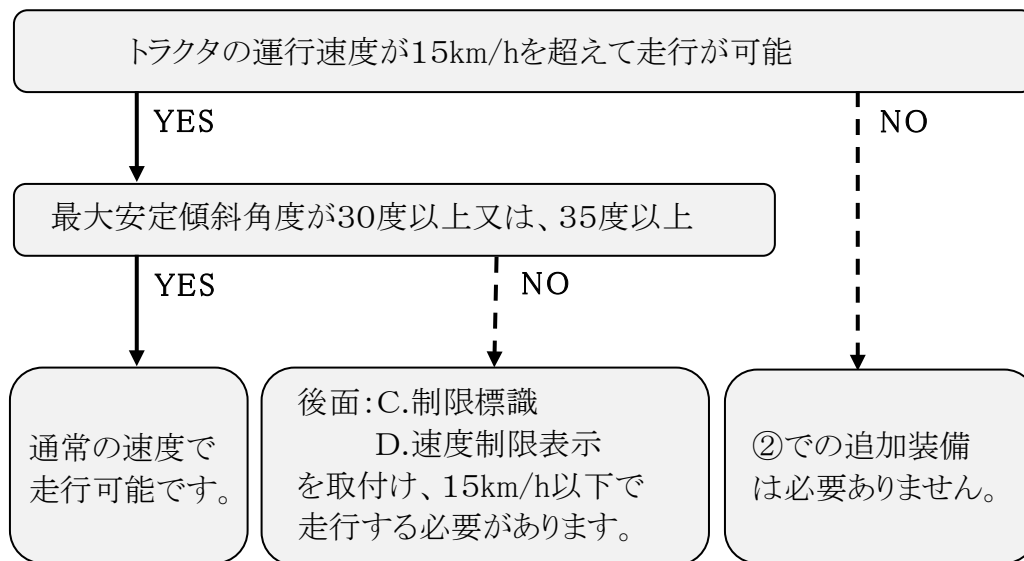
- ・ Aは前面の両側に、可能な限り最外側を取付けてください。
- ・ Bは後面の両側に、作業機の最外側から40cm以内、高さが地上25cm以上150cm以下の場所に可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ Cは後方から確認(視認)できる位置に取付けてください。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

②トラクタの運行速度



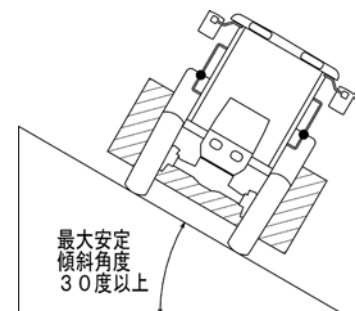
- 運行速度が15km/hに制限されないトラクタと作業機との組合わせについては日農工のホームページ(<http://www.jfmma.or.jp>)をご覧ください。
- 最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上または、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上または、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常ので速度で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

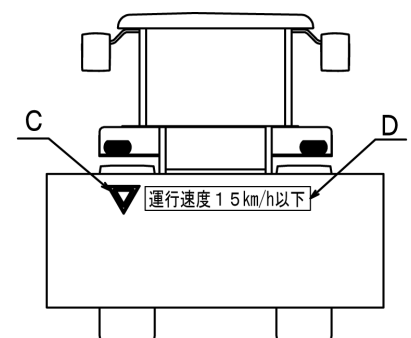
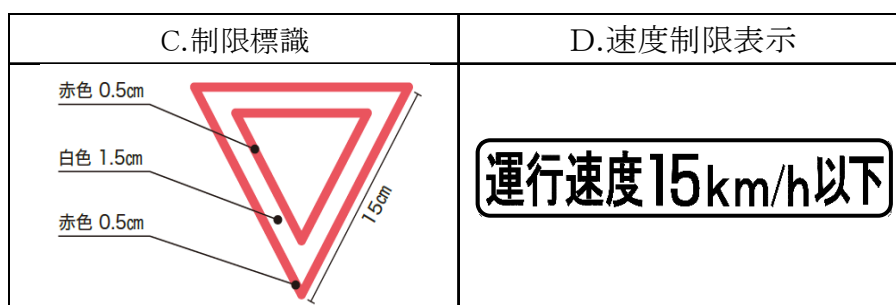
- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Cを作業機に表示、Dを作業機・運転席に表示を行う必要があります。



●装備の取付け位置

- ・C、Dは後方から確認(視認)できる位置に取付けてください。
- ・Dは運転席にも表示する必要があります。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

③トラクタの灯火器類（後部反射器、コンビネーションランプ（尾灯・制動灯・方向指示器）、後退灯）の視認性

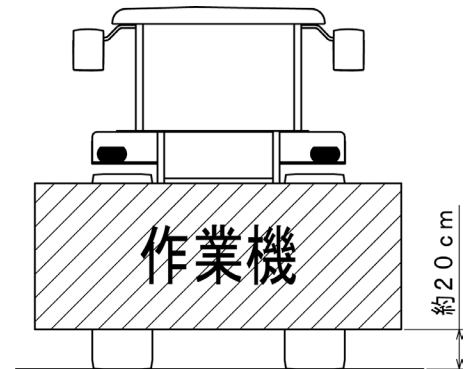
作業機の機体最下部を地面から約20cm上げた状態で後方から確認し、トラクタの灯火器類が視認できる。（※1）

YES

③での追加
装備は必要
ありません。

NO

・後退灯のみ視認できない場合は
可能な限りトラクタ上で移設してください。
・視認できない灯火器類は、作業機
に取付ける必要があります。
※取付けは販売店にご相談ください。



●装備の取付け位置

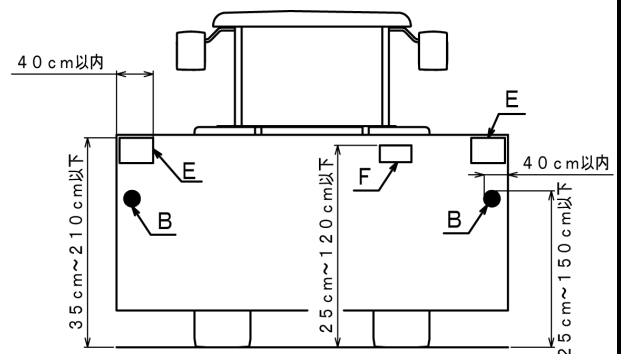
・各種灯火器類の取付け位置は以下のように定められています。

- 後部反射器（リフレクター） 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
- 尾灯（テールランプ） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- 制動灯（ブレーキランプ） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
- 方向指示器（ウインカー） 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
- 後退灯（バックランプ） 高さは可能な限り25cm以上120cm以下

- ・B、Eは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・Fは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たすように取付けてください。

（取付け例）

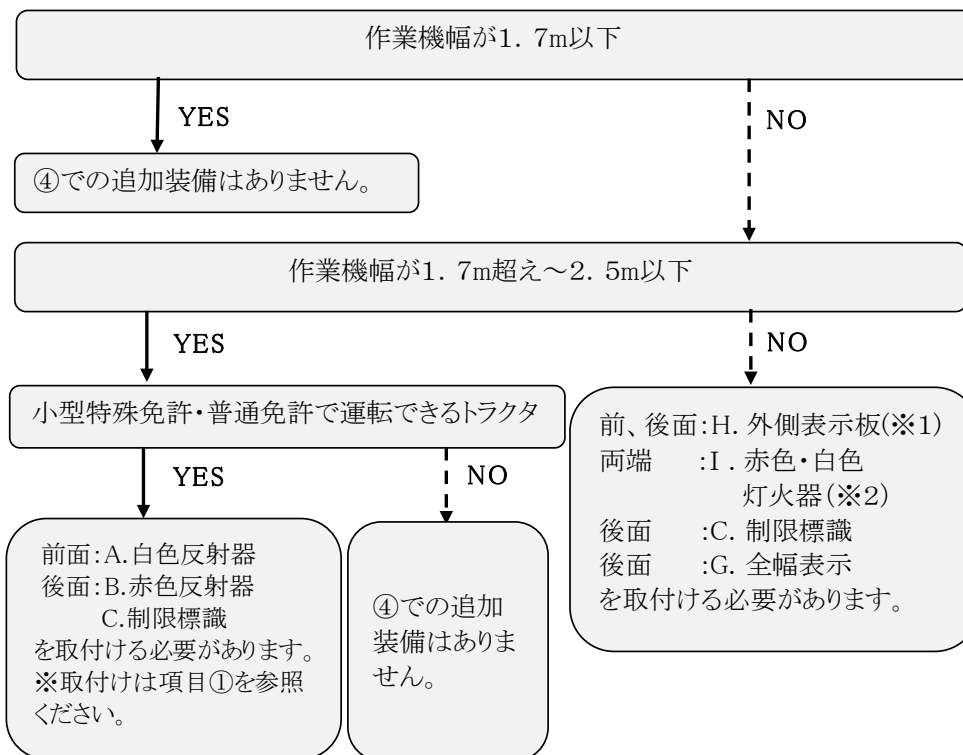
B.赤色反射器	E.コンビネーションランプ	F.後退灯



※1 単体で長さ4.7m以下、全幅1.7m以下、高さ2.0m以下、かつ、最高速度15km/h以下である農耕用トラクタの場合、尾灯・制動灯・後退灯は取付け義務が無い場合、装備されていない場合は確認の必要はありません。

⚠ 安全に作業するために

④作業機装着時の全幅



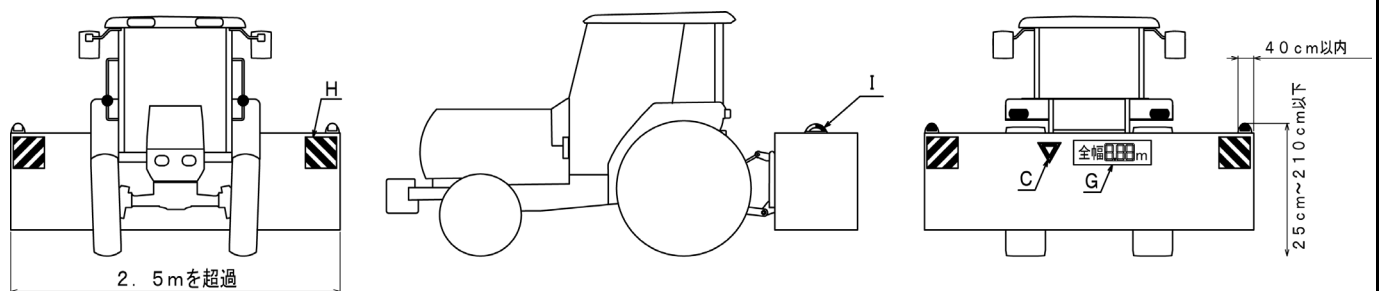
※1 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以上ある場合、反射器が必要になります。しかし、当社の外側表示板は反射材を含んでいるため、反射器は取付け不要です。

※2 トラクタの灯火器類が作業機の最外側から40cm以内の場合、取付け不要です。

●装備の取付け位置

- ・C、Gは確認(視認)できる位置に取付けてください。
- ・Hは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。
- ・Iは可能な限り最外側に取付けてください。また、前面が白色、後面が赤色になるようにしてください。

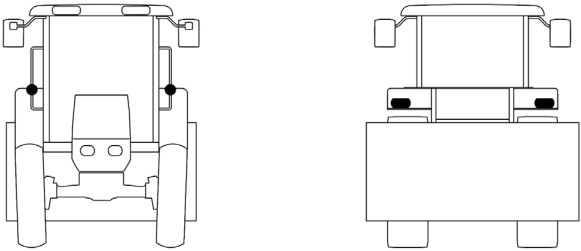
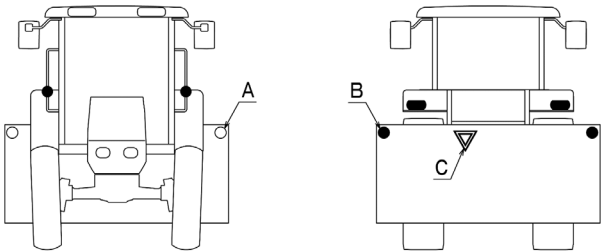
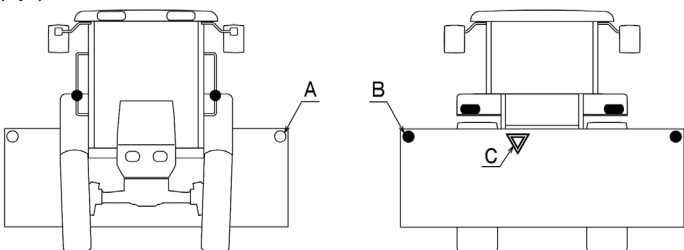
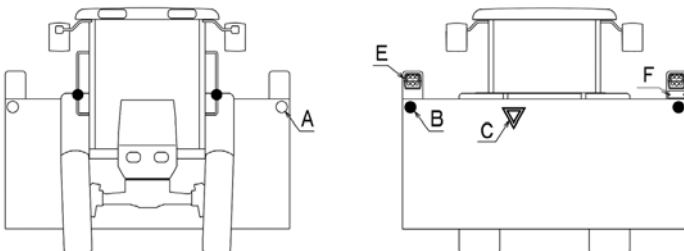
(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取付け例

トラクタに作業機装着時の寸法が、全幅2.5m、全高3.8m、全長12m以下の場合

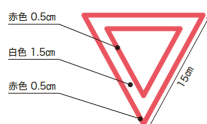
灯火器類の視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	トラクタの灯火器類が<u>全て視認できる</u>場合	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	(ア) 視認性による取付け部品無し 
		灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内、かつ<u>小型特殊免許・普通免許</u>で走行できるトラクタで幅1.7mを超える作業機を取付ける場合	(イ) 
		作業機の最外側から40cm以上離れている灯火器がある場合	(ウ) 
	トラクタの灯火器類で<u>視認できないもの</u>がある場合		(エ) 例：(ウ)に灯火器類を取付け 

灯火器・ステッカー

A. 白色反射器 B. 赤色反射器



C. 制限標識



D. 速度制限表示

運行速度15km/h以下

E. コンビネーションランプ



F. 後退灯



G. 全幅表示

全幅8.88m

H. 外側表示板



I. 赤色・白色灯火器



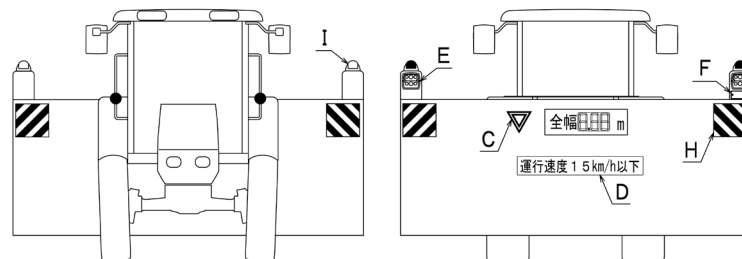
⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取り付け例

			トラクタに作業機装着時の全幅が2.5mを超過する場合
灯火器類の視認性 前照灯 車幅灯 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器	トラクタの灯火器類が 全て視認できる 場合	灯火器類の取付け位置が全て作業機の最外側から40cm以内の場合	(オ)
		作業機の最外側から40cm以上離れている灯火器がある場合	(カ)
	トラクタの灯火器類で 視認できないもの がある場合		(キ) 例：(カ)に灯火器類を取付け

※全幅が2.5mを超過する場合は、道路管理者(国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。

p.8「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。
例：(キ)に速度制限表示を追加



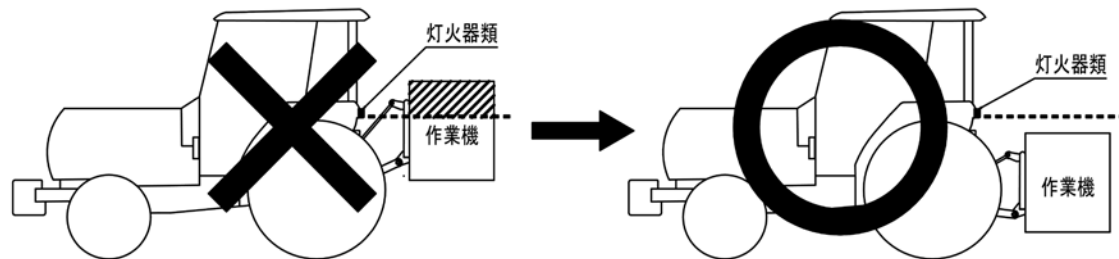
- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。
その他不明な点は、お買い上げ頂いた販売店にご相談ください。

⚠ 安全に作業するために

(4) 公道走行時の注意点

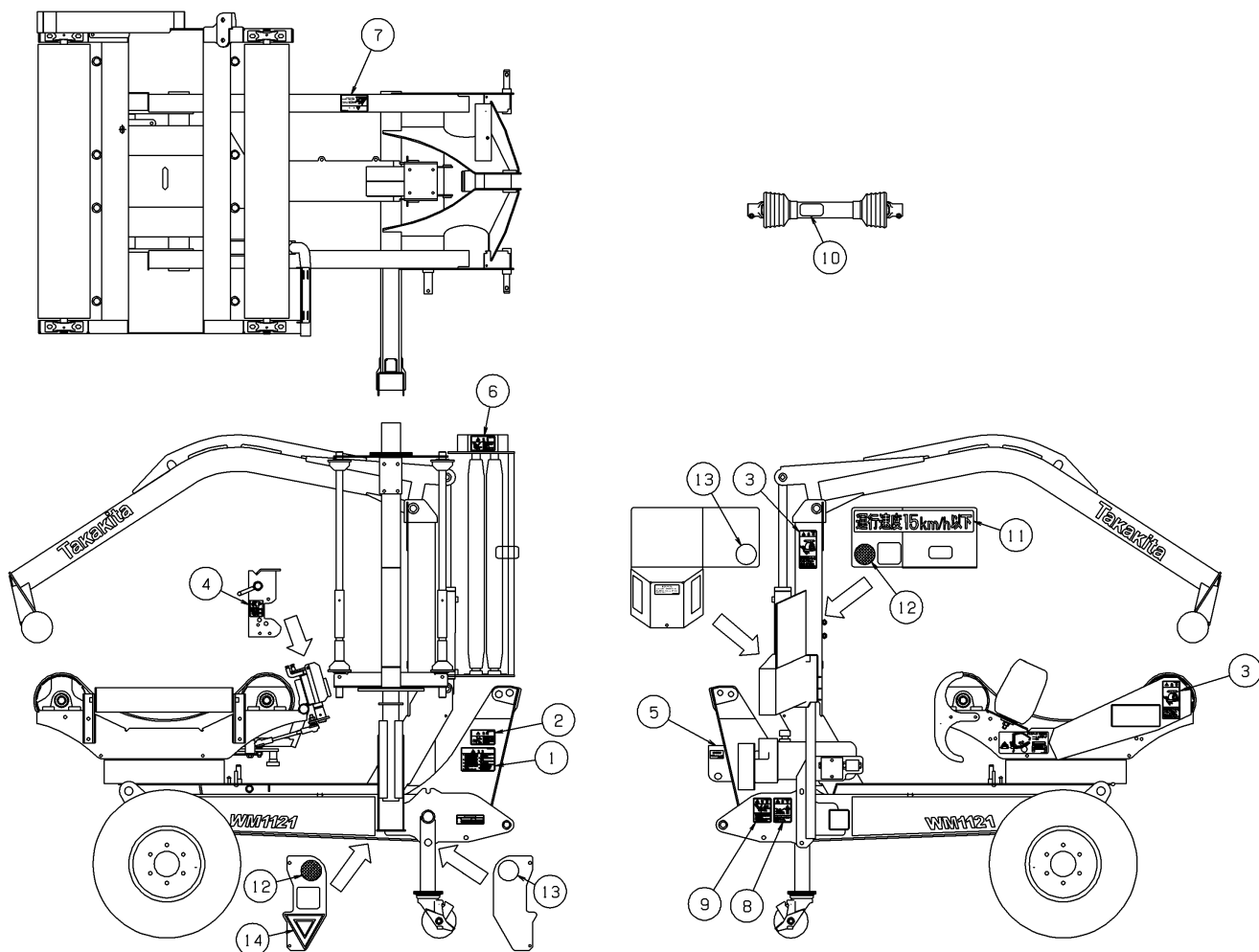
- パトライトを設置した状態での公道走行は、法令で禁止されています。
公道走行時は、パトライトを外してください。
- ベールをテーブルに載せるとランプやステッカーが後方から見えなくなります。
公道走行時は、ベールを載せないでください。
- フィルムが伸びて公道走行の妨げになる恐れがあります。
公道走行時は、フィルムを外してください。
- トラクタの灯火器類が視認可能であれば、灯火器類を取付ける必要はありません。
灯火器類を取付けていない作業機は、下図のようにトラクタの灯火器類が見えるように作業機の高さを調整してください。



⚠ 安全に作業するために

6. 警告ラベルの貼付け位置

● WM1121



① 部品コード 00120-4501-330

⚠ 注意	
1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。 2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。 3. エンジン始動前に機体の周りに人がいないことを確認してください。 4. 作業中は人や動物を近づけないでください。 5. 運転席を離れるときは、必ず	エンジン停止し、駐車ブレーキをかけてください。 6. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。 7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。 8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。 9. 保安基準を満たさない限り公道走行はできません。

② 部品コード 00120-6000-230

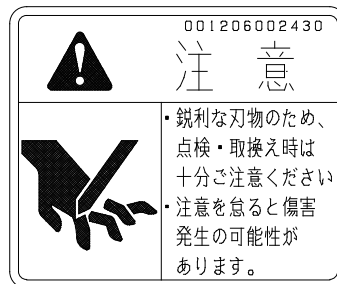
⚠ 危険	
	転落事故を防ぐためには発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないよう充分な前部ウエイトを装備下さい。

⚠ 安全に作業するために

③部品コード 00120-6000-372



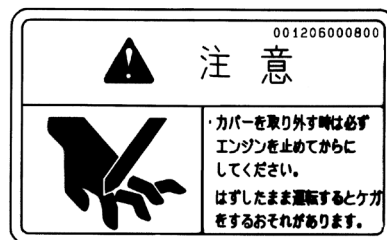
④部品コード 00120-6002-430



⑤部品コード 00120-6000-610



⑥部品コード 00120-6000-800



⑦部品コード 00120-6001-320



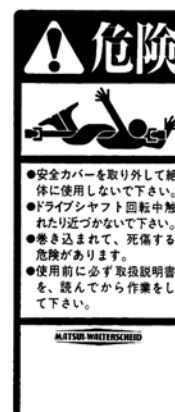
⑧部品コード 00130-6000-210



⑨部品コード 00130-6000-220



⑩部品コード 00130-6951-010

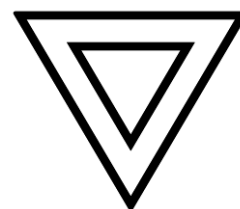
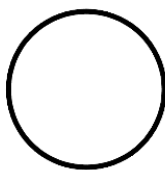
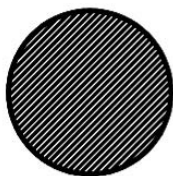


⚠ 安全に作業するために

⑪部品コード 00120-5200-050

運行速度15km/h以下

⑫部品コード 00120-6002-270 ⑬部品コード00120-6002-280 ⑭部品コード 00120-6002-260

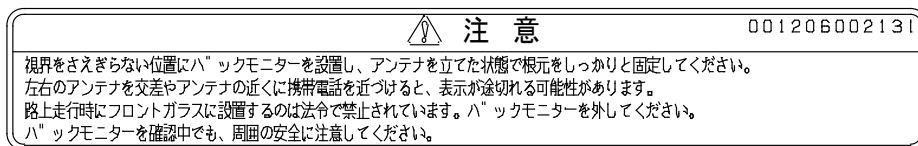
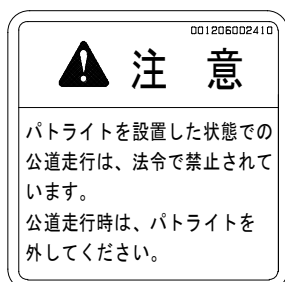


リモコンアタッチ

部品コード 00120-6002-410

バックモニターアタッチ

部品コード 00120-6002-131



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、飼料稲、トウモロコシ、稲ワラ、牧草等のペールをラップする作業にご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A (農協)、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

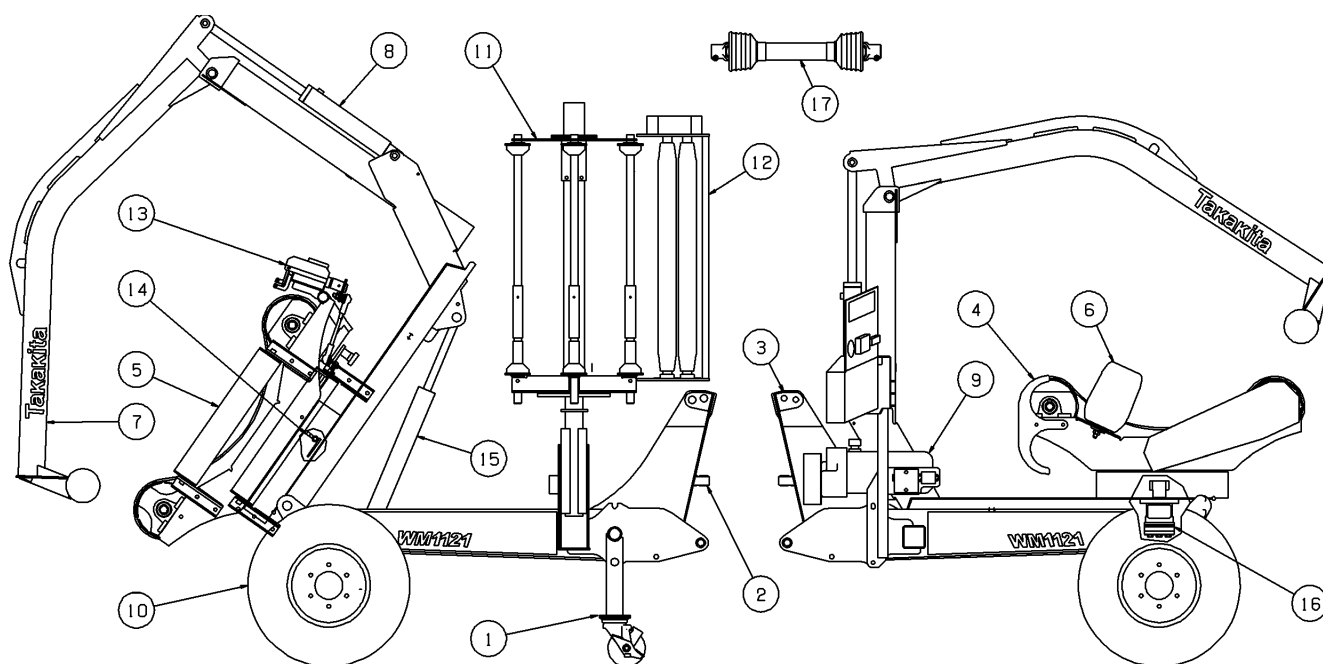
※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	オートラップマシーン
型 式	WM 1 1 2 1
機 体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき

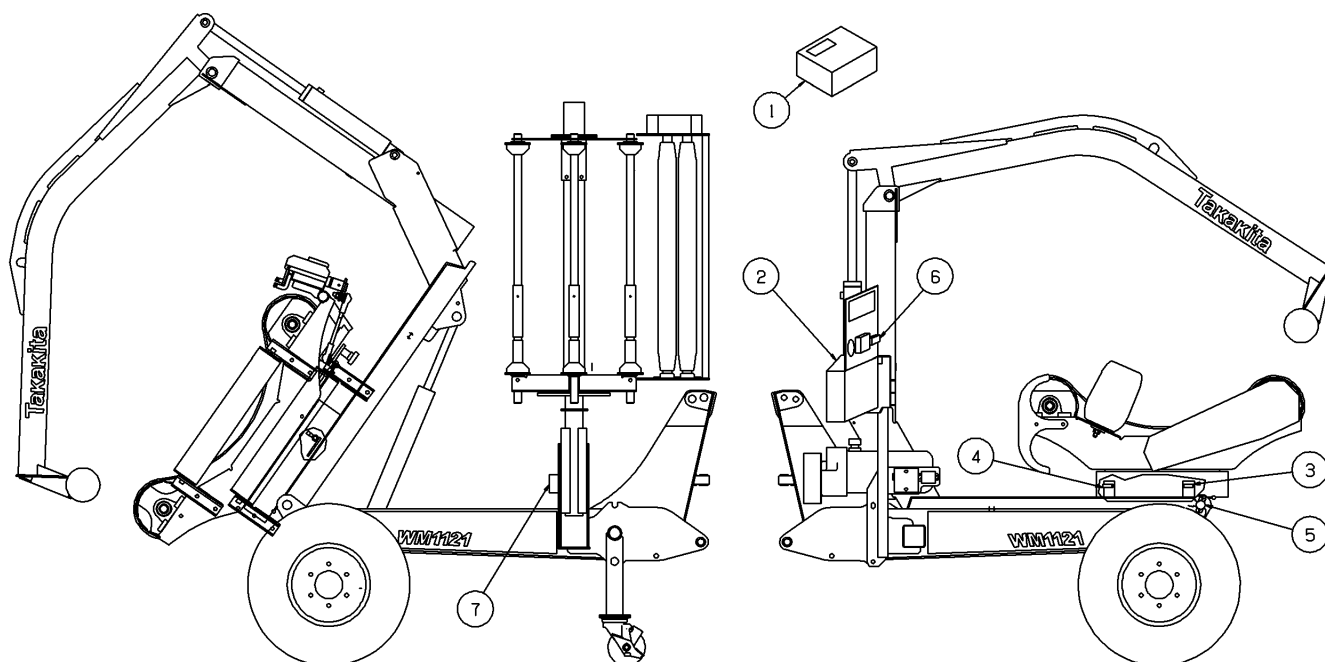
1. 各部



番号	名 称	は た ら き
1	キャスター	保管時の移動が楽な自在輪です。
2	入力軸	油圧ポンプを駆動します。
3	3Pマスト	カテゴリ I・II 兼用マストです。
4	ターンテーブル	ベールを回転させます。
5	ハウシュツローラ	たておろし時のベール放出を補助します。
6	サイドローラ	ベールの横ずれを防ぎます。
7	アーム	ベールを引き寄せます。
8	アームシリンダ	アームを動作させます。
9	油圧ポンプ	シリンダと油圧モータにオイルを供給します。
10	タイヤ	前後進とも切れ角30° の大型キャスターです。
11	フィルムダイ	50cm、75cmのフィルムを4本までセットできます。
12	ストレッチ装置	ラップフィルムを強制的に伸ばします。
13	タイアンドカット装置	フィルムを切断、保持します。
14	ロックカナグ	ターンテーブルのロックを行います。
15	ダンプシリンダー	積み込みと荷降ろしを行います。
16	油圧モータ	ターンテーブルを回転させます。
17	ユニバーサルジョイント	トラクタPTOの動力を本機に伝えます。

各部の名称とはたらき

2. 電磁バルブ、センサ、ランプ類



番号	名 称	は た ら き
1	コントロールボックス	本機の操作を手元で行います。
2	電磁バルブ	制御装置の信号により油圧を制御します。
3	カウントセンサ	ターンテーブルの回転および停止位置を検出します。
4	タテセンサ	たておろし時のターンテーブル停止位置を検出します。
5	ポテンショメータ	放出時のダンプフレーム角度を検出します。
6	コンビネーションランプ(左)	ウィンカ、ブレーキランプ、尾灯を備えたランプ
	赤色反射器(後方)	後方用の反射器
	白色反射器(前方)	前方用の反射器
	後退灯	後退するときに点灯するランプ
	速度制限表示	速度制限を受けて公道走行していることを表示
7	コンビネーションランプ(右)	ウィンカ、ブレーキランプ、尾灯を備えたランプ
	赤色反射器(後方)	後方用の反射器
	白色反射器(前方)	前方用の反射器
	制限標識	制限を受けて公道走行していることを示す標識

トラクタへの装着

警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
 - 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
 - ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを停止し、PTOを切ってから確実に取り付けてください。
- 以上のことを守らないと、傷害発生のおそれがあります。

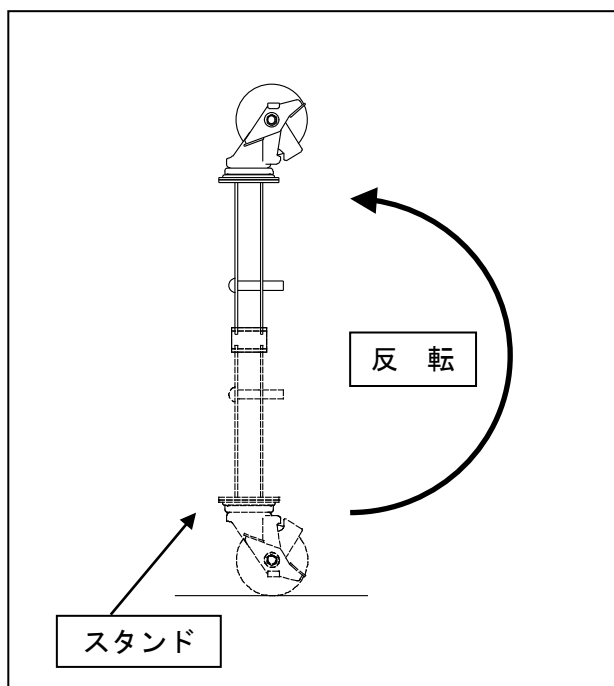
1. 装着のしかた

◆トラクタに取り付ける

左ローリンク、右ローリンク、トップリンクの順序で取り付けてください。

◆スタンドを上げる

ポジションコントロールでローリンクを少し上げ、スタンドを反転させます。



◆チェックチェーンで横振れ調整

運転および作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心にローリンクが左右に2～3cm程度の振れになるように調整してください。

◆トップリンクの長さ調整

機体が水平となるように、トップリンクの長さを調整してください。

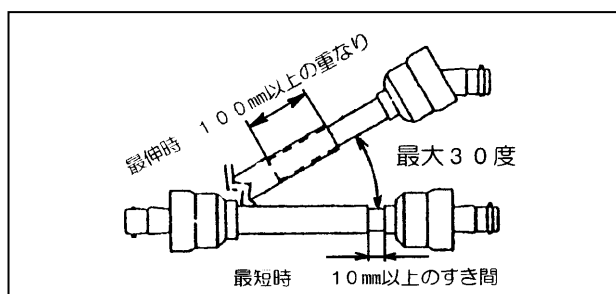
2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取り付けてから、トラクタPTO軸に確実に取り付けてください。

◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは、ローリンクによる本機の上昇・下降により変化します。先にジョイント長さを確認し、長すぎるときは、次図の寸法が確保できるように切断してください。



◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけてしっかりと固定してください。

トラクタへの装着

！ 警告

カバーの回り止めは必ず行ってください。
これを怠ると傷害事故につながるおそれがあります。

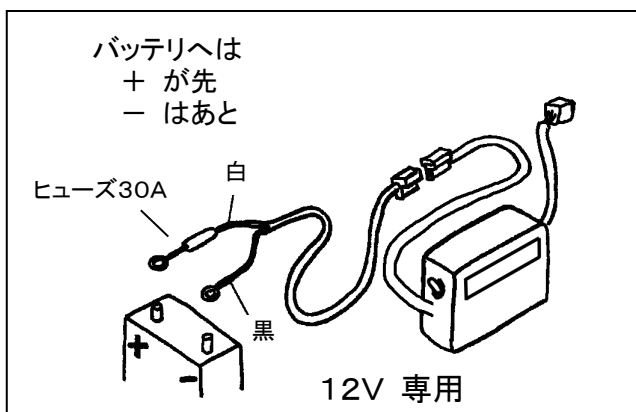
3. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリーから

コントロールボックスの電源は、トラクタのバッテリーより取り出します。

◆接続できるバッテリーの電圧は12V

電源は12Vのバッテリーに接続してください。24Vのバッテリーに接続すると、コントロールボックス内部および電気系統が破損するおそれがあります。



◆ (+)、(-) の接続を間違えないように

白色線はバッテリーの (+) へ接続

黒色線はバッテリーの (-) へ接続

注意

(+)、(-) の接続を間違えると、コントロールボックスの電源が入りません。

！ 警告

バッテリーへの接続順序は、(+)側から行ってください。また、取り外すときは、(-)側から行ってください。

逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取付け

コントロールボックスの裏側に吸盤を装備しています。操作のしやすいように、トラクタの運転席右側のガラス等に吸着させて取り付けてください。

(取り付ける前にガラス面の埃等をきれいに拭き取ってください)

吸盤が汚れている場合は水洗いし、十分に乾燥させてください。

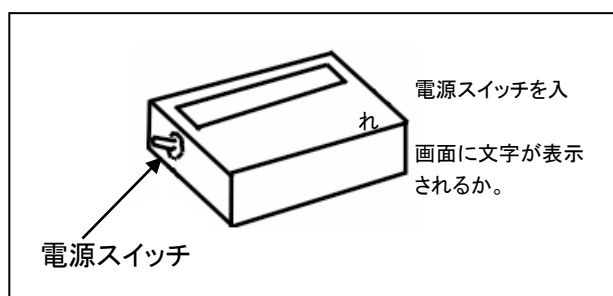
◆配線の接続

電源コードとハーネスをそれぞれコントロールボックスに接続します。

配線が作業の邪魔にならないよう、また旋回時等に引っ掛からないようにトラクタに固定してください。

◆電源スイッチを入れる

電源スイッチを上の方に入れてください。電源ランプがつかないときは、コントロールボックスのヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの (+) と (-) が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。



◆作業終了後は取外して屋内に保管

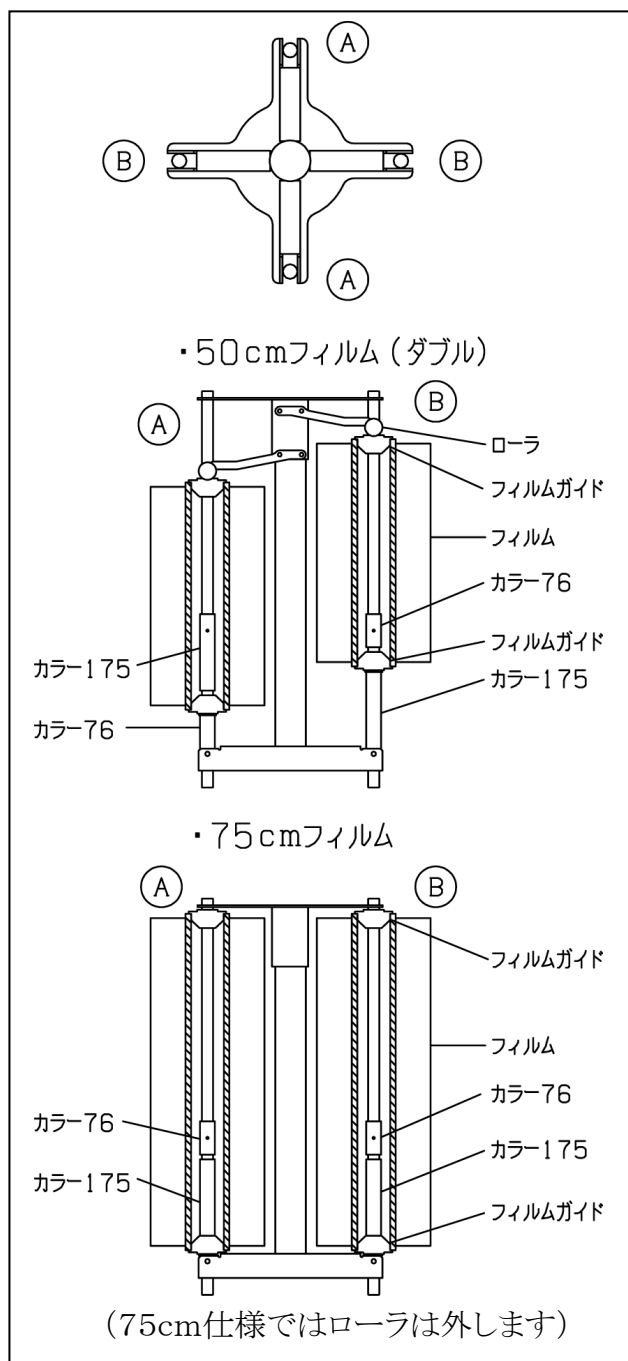
作業終了後、コントロールボックスは接続されているコネクタから取り外し、水等がかからない屋内に保管してください。

運転に必要な装置の取扱い

1. フィルムの装着

- ◆本機は75cm、50cmフィルムで使用できます。75cmはシングルストレッチ、50cmはダブルストレッチ方式になっております。但し、75cmフィルムを使用する場合はボール径φ100cm以上です。

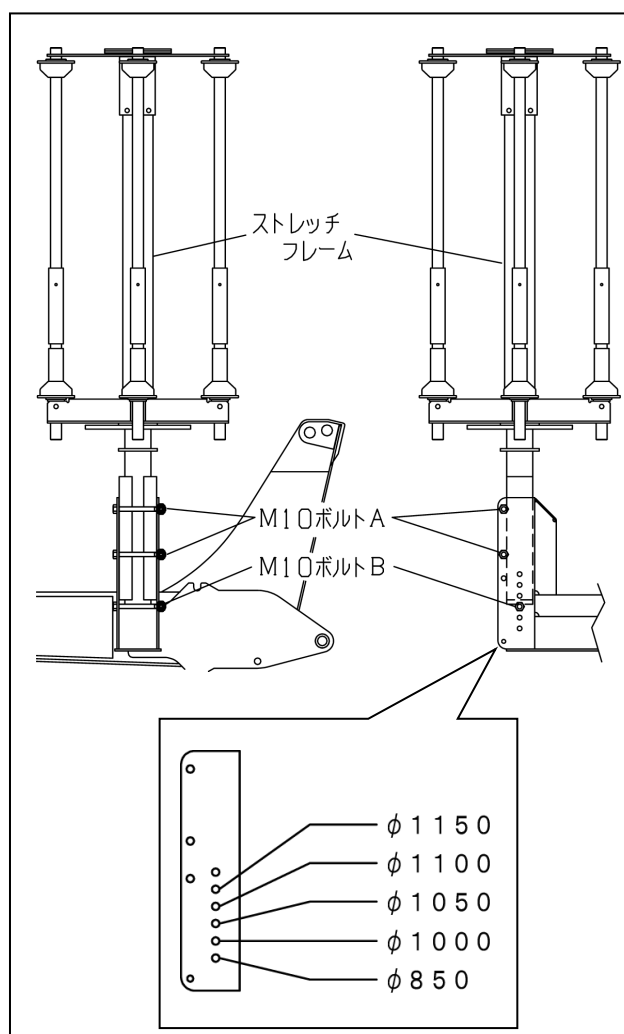
使用するフィルムによってフィルムガイド、カラー、ローラを次図のように組替えてください。(出荷時は50cm仕様です)



●ストレッチの高さ調整

ボールサイズにより高さ調整が必要です。次図のように調整してください。

- ①M10ボルトAを緩めてください。
- ②ストレッチフレームを吊り上げてください。
- ③次図またはステッカーを参照し、M10ボルトBを使用するフィルムサイズに合わせた穴に組替えてください。
- ④ストレッチフレームをM10ボルトBにあたるまで下げてください。
- ⑤M10ボルトAを締めてください。

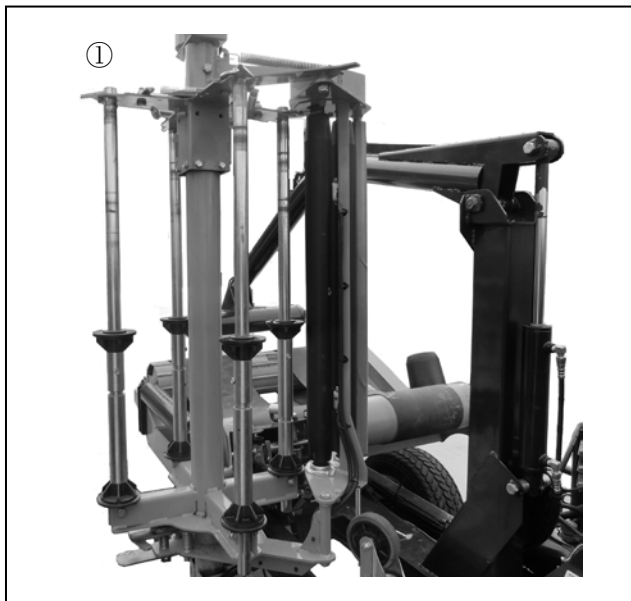


上記は目安位置です。実際のボール径に合わせてフィルムがボール中心になるように調整してください。

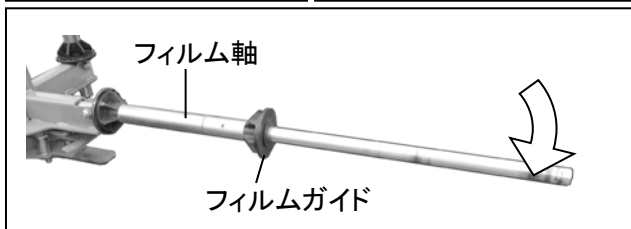
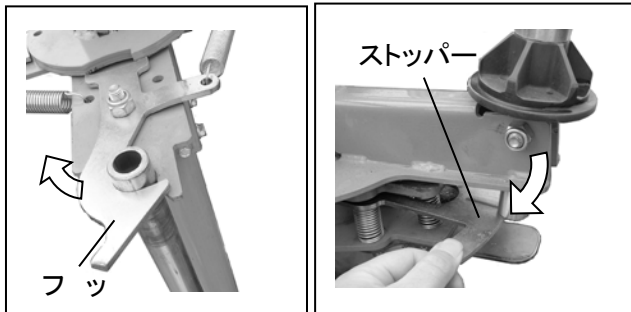
運転に必要な装置の取扱い

●フィルム挿入方法

①フィルムを挿入する際は次図①の位置で行います。



②上部のフックを開くとフィルム軸が少し倒れます。次に下部のストッパーを下げると軸が完全に倒れます。



⚠ 注意

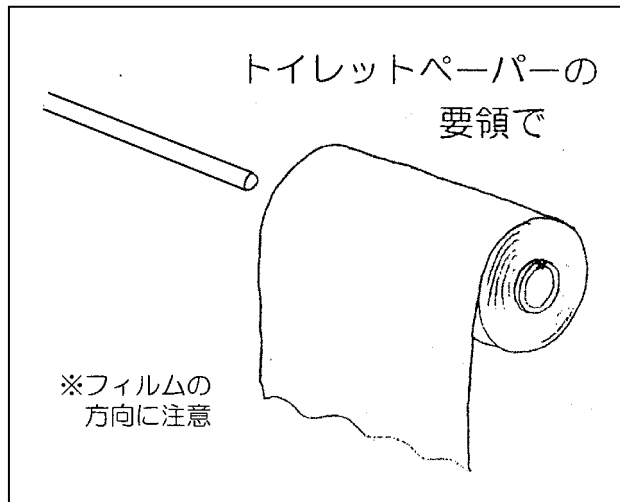
ストッパーを外す時は、必ずフィルム軸が倒れないよう手で押えておいてください。

これを怠ると傷害事故につながるおそれがあります。

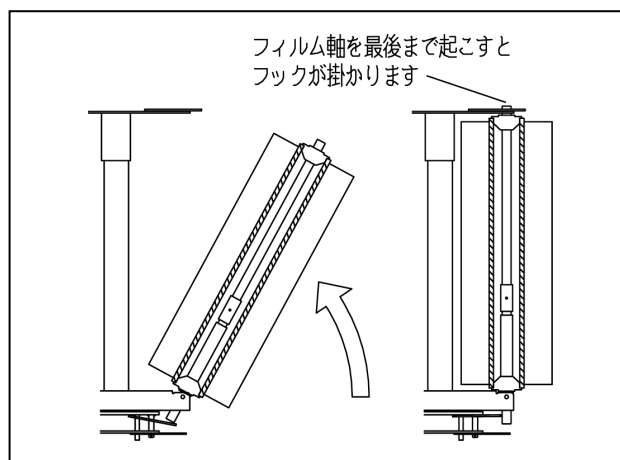
③フィルムガイドを外し、フィルムをフィルム軸に挿入します。

再度、フィルムガイドを挿入します。

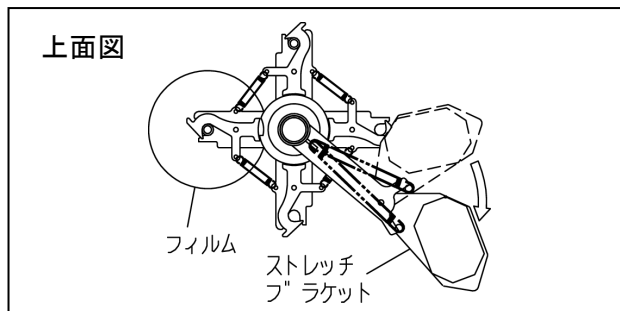
傷が付かないように、フィルムの取り扱いには充分注意してください。



④フィルム軸を起こして、フックをかけます。

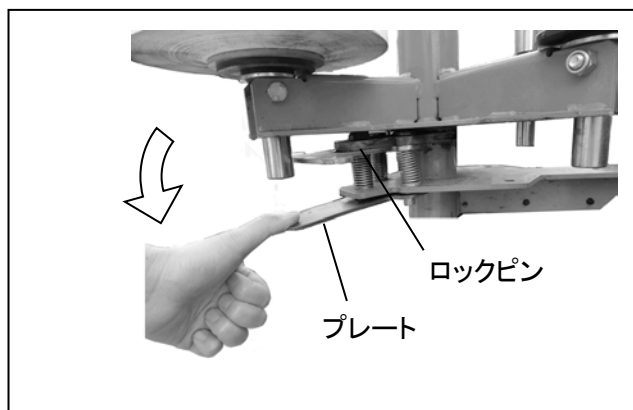


⑤ストレッチブラケットを矢印の方向に移動させます。

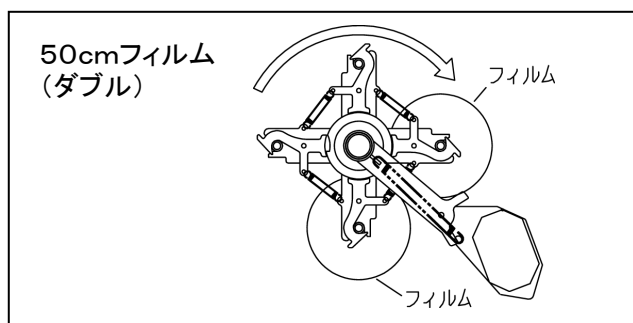
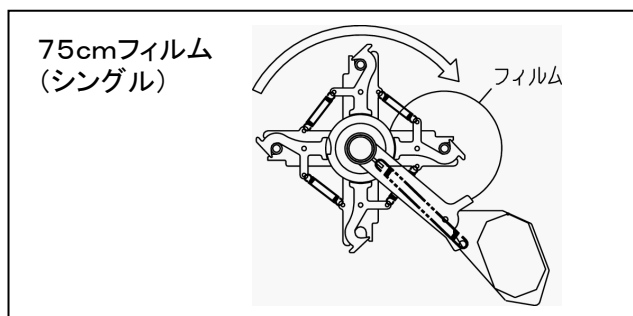


運転に必要な装置の取扱い

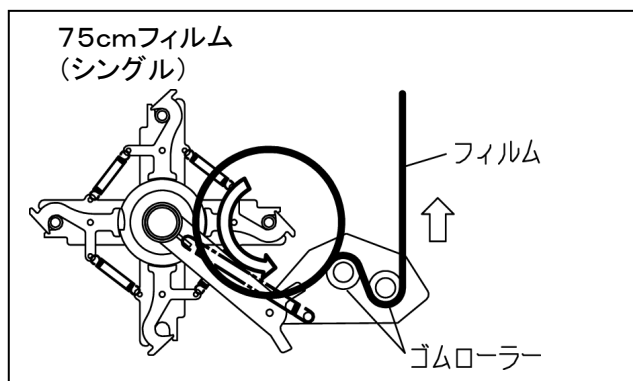
⑥プレートを下げてロックを解除します。



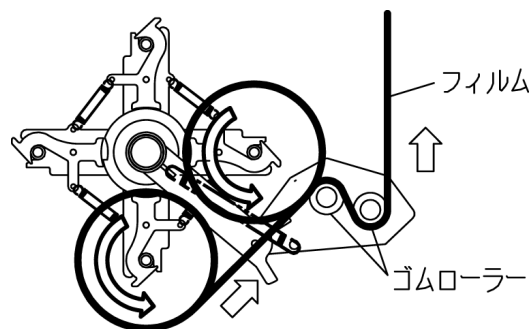
⑦ロックを解除した状態でフィルムダイを回転させ、次図の位置にフィルムをセットします。



⑧ストレッチブラケットをフィルム側に戻し、ゴムローラーにフィルムを通します。

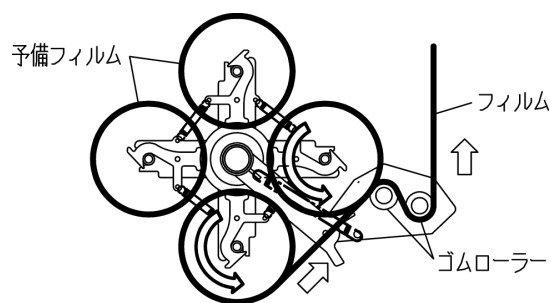


50cmフィルム
(ダブル)



⑨残ったフィルム軸に予備フィルムをセットすることが可能です。
フィルムがなくなった際は⑥～⑧の手順で予備フィルムをセットします。

50cmフィルム
(ダブル)



! 注意

フィルムの取り扱いには十分注意してください。特に端部に傷がつくと、ラッピング中にフィルムが切断します。道路走行時はフィルムを外してください。フィルムの損傷につながるおそれがあります。
ラップフィルムの品質により密封精度が劣る場合がありますので純正フィルムの使用を推奨いたします。

運転に必要な装置の取扱い

2. テーブルローラのスピード変更

◆テーブルローラの回転速度変更方法

- ①チェンカバーを外します
- ②チェーンテンションを緩めます。
- ③図のようにスプロケットを入れ換えてください。

50cmフィルムダブルで使用する場合

スプロケット歯数 21T を使用

75cmフィルムシングルで使用する場合

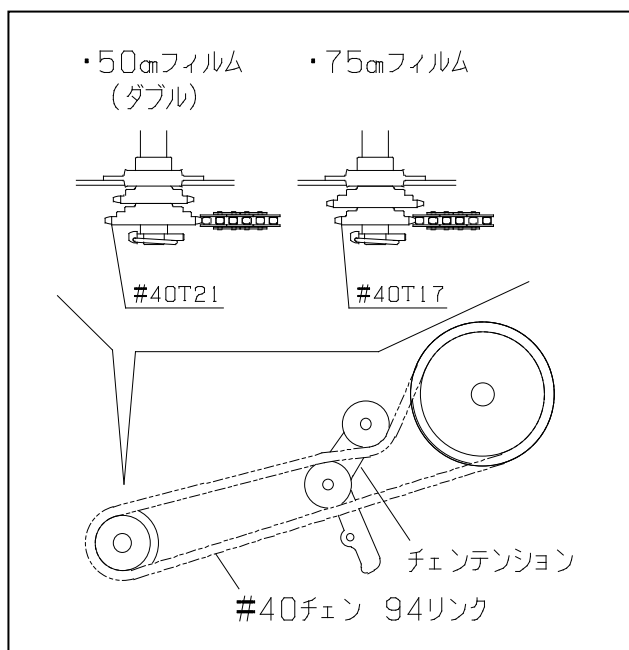
スプロケット歯数 17T を使用

50cmフィルムの使い切りで一時的

にシングルで使用する場合

スプロケット歯数 17T で代用できます

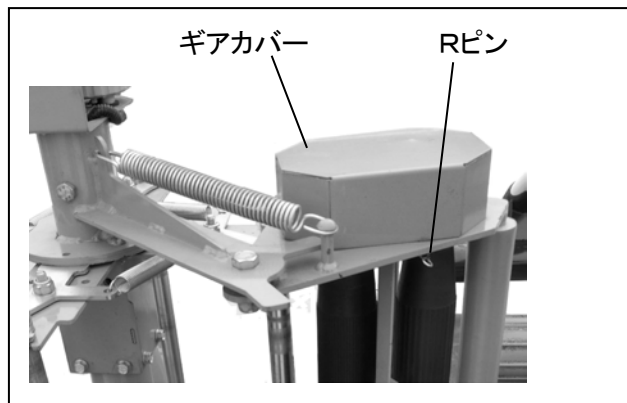
- ④テンションでチェンを張り固定してください。
- ⑤チェンカバーを取り付けてください。



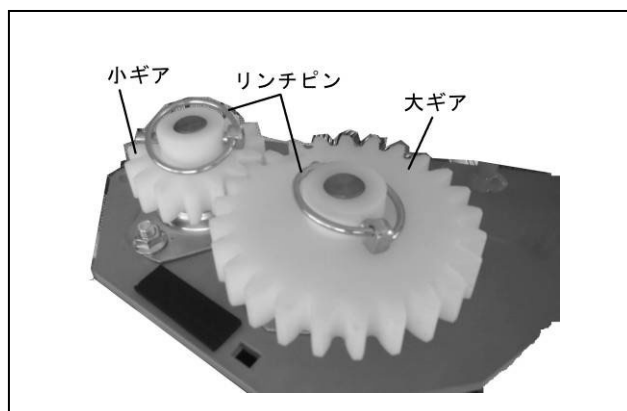
3. フィルム伸び率の調整

純正フィルム用にフィルムの伸び率は、25T(167%)に設定しています。気温やフィルム特性の違いにより切れ易くなったりすることがありますので、その場合には、付属の伸び率変更用のギア24T(160%)に交換してください。

◆伸び率変更ギア交換方法



- ①Rピン(2箇所)を取り、ギアカバーをはずします。



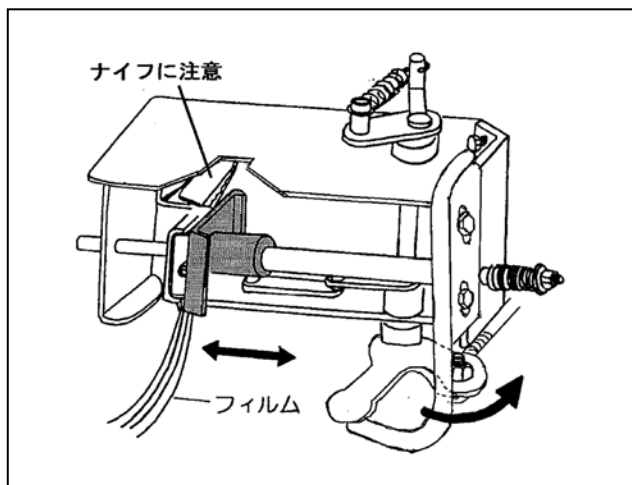
- ②リンチピンをはずし、大ギア(25T)を付属のギア(24T)に交換します。

- ③リンチピンを取り付けて、カバーを装着します。

運転に必要な装置の取扱い

4. タイアンドカットにフィルムをはさむ

装置を開きます。フィルムを引き出し、装置の根元に下からはさみます。



！ 注意

鋭利な刃物がありますので取り扱いには充分注意してください。

注意をおこたると傷害事故につながるおそれがあります。

5. 巻数設定

◆カウンタの設定

巻数はコントロールボックスの参考巻数設定を参考に「+」ボタン、「-」ボタンで設定してください。

・フィルム50cm(ダブルストレッチ)

ベール径	巻数設定数(参考値)	
	4層巻	6層巻
φ 85cm	8	12
φ 100cm	10	15

・フィルム75cm(シングルストレッチ)

ベール径	巻数設定数(参考値)	
	4層巻	6層巻
φ 85cm	10	15
φ 100cm	12	18

！ 警告

この作業を行う時は、ダンプフレームが完全に戻った状態にして、必ずエンジンを停止してから行ってください。

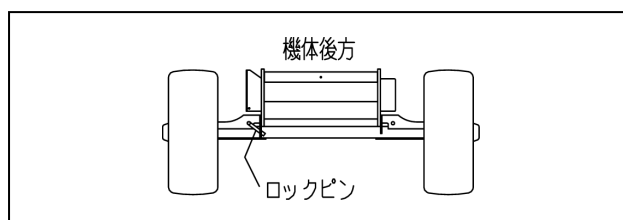
これを怠ると、重大な傷害事故につながるおそれがあります。

注意

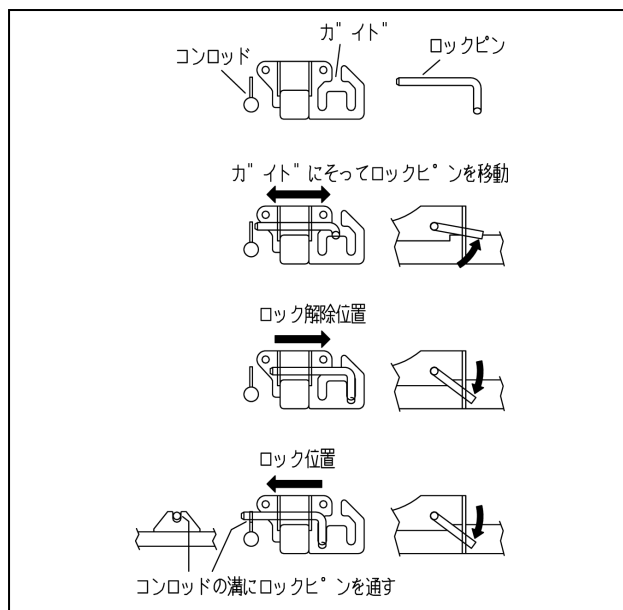
1. 巻数の設定は目安です。実際のベール径に合わせて調整してください。
2. ベール密封後、誤ってフィルムに傷がついたり、穴があいた場合は、再ラップまたは補修してください。
3. フィルムの保管は直射日光が当たらない涼しい場所に保管してください。

6. キャスターの固定

倉庫内移動時等にキャスターをロックすることができます。



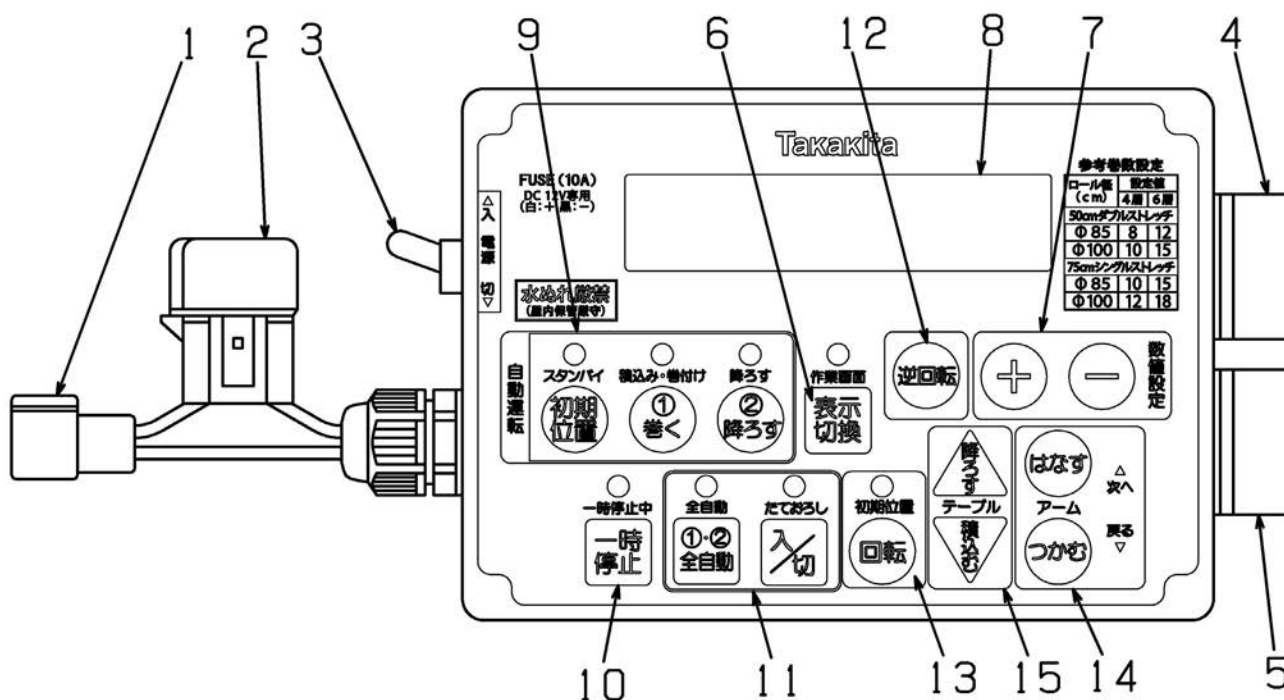
ロックピンをガイドにそって組替えることでロック、解除を変更することができます。



運転に必要な装置の取扱い

7. コントロールボックス

◆コントロールボックスの取り扱い



※コントロールボックス前面には保護フィルムが貼られています。

液晶画面がよく見えるようにするため、使用前に保護フィルムを剥がしてください。

番号	名 称	は た ら き
1	電源コネクタ	・電源の供給を受けます。トラクタの電源コネクタに接続してください。
2	ヒューズ	・異常に高い電流が流れたとき、コントロールボックスを保護します。 (ヒューズ10A)
3	電源入/切スイッチ	・スイッチを上げると電源が入り、下げると電源が切れます。
4	入力用コネクタ	・センサ、スイッチレバーからの信号を受け取ります。 作業機の入力用コネクタに接続してください。
5	出力用コネクタ	・油圧バルブ、パトライト(オプション)を動かします。 作業機の出力用コネクタに接続してください。
6	表示切替ボタン	・押すたびに、作業確認モード→設定モード→入力チェックモード→出力チェックモード→アグポートチェックモード(オプション)→作業画面→を切替えます。 LED点灯: 作業画面になっており、作業可能。 LED消灯: 設定モードなどになっており、作業はできません。
7	+ボタン -ボタン	・押すと、巻数に+1します。 ・押すと、巻数に-1します。
8	液晶画面	・作業状態、エラー内容を表示します。

運転に必要な装置の取扱い

番号	名 称	は た ら き
9	初期位置ボタン ①巻くボタン ②降ろすボタン	・ボールを拾いやすい状態(初期位置)まで動作させます。 LED点灯:ボールを拾いやすい状態まで動作中。 ・ボールをつかんだ後、押すと自動運転1を開始します。 (積み込み→アームはなす→ラッピング) LED点灯:自動運転1動作中。 ・押すと自動運転2を開始します。 (テーブル逆回転→アームつかむ→荷降ろし→アームはなす→積み込み) LED点灯:自動運転2動作中。
10	一時停止ボタン	・押すと、動作を一時停止します。 LED点灯:一時停止中。 - 再度一時停止ボタンを長押しすると、動作を再開し、その他のボタンを押すとリセットします。
11	①・②全自動 たておろしボタン	・自動運転1と自動運転2を連続または別々に自動運転することができます。 LED点灯:自動運転1→自動運転2へ連続動作の設定中。 LED消灯:自動運転1、自動運転2を別動作の設定中。 ・押すと、たておろしあり/なしの動作を切替えます。 LED点灯:たておろしあり LED消灯:たておろしなし
12	逆回転ボタン	・押すと、低速で逆回転します。 テーブルをダンプさせた状態で逆回転させると、初期位置と縦位置でテーブルが固定されます。
13	回転ボタン	・押している間回転します。 テーブルをダンプさせた状態で回転させると、低速で回転します。 また、初期位置と縦位置でテーブルが固定されます。
14	アームはなすボタン アームつかむボタン	・押している間、ボールをはなします。 ・押している間、ボールをつかみます。
15	テーブル降ろすボタン テーブル積み込むボタン	・押している間、ボールを降ろします。 ・押している間、ボールを積み込みます。

運転に必要な装置の取扱い

◆キースイッチを入れると

- ・社名、シリーズの型式、プログラム名を表示。

タカキタ WM1120
45101-9411-010

- ・巻数と個数を表示

「マクスウ」は巻き付け動作時のテーブル回転数です。

参考巻数設定を参考にして、「+」ボタン、「-」ボタンで変更してください。

「コスウ」は巻いたバール数を示し、自動動作1で巻付けしたとき、カウントが「+1」します。999個までカウントした後は「1」に戻ります。

「コスウ」をリセットしたいときは「表示切替」ボタンを2回押し、設定モードのNo. 1を表示します。「-」ボタンで0個にすることができます。

マキ： /15 コスウ：3

◆作業確認モードの表示

- ・「表示切替」ボタンを1回押すと作業確認に入ります。

サギョウ カクニン

- ・累積個数を表示します。メンテナンス時期の参考にご利用ください。

ルイセキコスウ 1000コ

作業確認が終わったら、「表示切替」ボタンを5回押して、「作業画面LED」を点灯させてください。

◆設定モードの表示と変更方法

- ・「表示切替」ボタンを2回押すと設定モードに入ります。

※無闇な設定変更は動作不良に繋がりますので、絶対にしないでください。

セッテイ モード

運転に必要な装置の取扱い

- 以下のボタンで設定変更してください。
「アームはなす」ボタン：次の項目を表示 ・「+」ボタン、「-」ボタン：値を変更
「アームつかむ」ボタン：前の項目を表示
- 5, 6, 7, 8の設定の際は「積込む・荷降ろし」ボタンを押すと動作し、その値を点線枠内に表示していますので、参考に設定してください。

○○○○○○○○○○ ○○○○V
ショキチ ○○○○ 2. 50V

⚠ 注意

けがをするおそれがありますので、コントロールボックスの「積込む・荷降ろし」ボタン操作の際は、機械の周りに人がいないことを確認してから行ってください。

No.	表示	内容
1	コスウ 1000コ -ボタン デ 0コ	-ボタンを押すと0個にできます。
2	フィルムギレウエキノウ OFF +/-ボタン デ セッテイ	オプションでストレッチ装置上側にフィルムギレセンサを搭載できます。 フィルムギレウエセンサの機能を使用する場合は、設定をONにしてください。
3	フィルムギレシタキノウ OFF +/-ボタン デ セッテイ	オプションでストレッチ装置下側にフィルムギレセンサを搭載できます。 フィルムギレシタセンサの機能を使用する場合は、設定をONにしてください。
4	ジドウ1 ツカム OFF ショキチ OFF	自動運転1の積み込みの前に、ダンプしてバールを掴む動作をさせることができます。 必要な場合は設定をONにしてください。
5	テーブルテイシ 0. 80V ショキチ0. 80V 2. 50V	積み込みの際、積み込み動作を一旦停止させ、機体にかかるショックを和らげます。 その時の一旦停止の角度を設定できます。
6	テーブルタテオロシ 4. 00V ショキチ4. 00V 2. 50V	たておろしありで自動運転2のバール放出の際、設定位置でバールを放出します。 その時の放出位置の角度を設定できます。
7	テーブルモドリ 2. 80V ショキチ2. 80V 2. 50V	初期位置ボタンや降ろすボタンを押したとき、最終テーブルが設定位置に戻ります。その時の戻り位置の角度を設定できます。
8	テーブル タイキ 3. 30V ショキチ3. 30V 2. 50V	たておろしありで自動運転2のバール放出後、テーブルが少し戻ります。その時の戻り位置の角度を設定できます。

運転に必要な装置の取扱い

No.	表示	内容
9	ソフト ベール ON ショキチ ON	たておろしありで自動運転2のベールを縦につかむとき、アームでベールを押し過ぎないようにしています。 unnecessary場合は設定をOFFにしてください。
10	アーム ツカム 3. 0s ショキチ 3. 0s	自動運転の際にアームでベールをつかむ動作をします。 つかむ時の動作の時間を設定できます。
11	アーム ハナス 2. 0s ショキチ 2. 0s	自動運転1の積み込み後にアームをベールから放します。 また、自動運転2の放出の際ベールからアームを放します。 放す時の動作時間を設定できます。
12	テーブル カイテン 0. 0s ショキチ 0. 0s	オプションのリモコンを利用してたておろしなしで自動運転2を行った際、テーブルが戻った後にテーブルを設定時間回転させることができます。
13 ～ 15	オプションのアグポートアタッチを搭載した際に利用します。 アグポートアタッチ取扱説明書をご覧ください。	

設定変更が終わったら、「表示切替」ボタンを4回押して、「作業画面LED」を点灯させてください。また、先にベールを載せていない状態で変更した動作を確認してください。

◆入力チェックモードの表示

- ・「表示切替」ボタンを3回押すと設定モードに入ります。

表示のセンサやリモコンがON状態だとブザーが鳴り、OFF状態だとブザーが鳴りません。

センサの入力確認にご利用ください。

ニューリョク チェック モード

- ・以下のボタンで表示を変更してください。

・「アームはなす」ボタン：次の項目を表示 ・「アームつかむ」ボタン：前の項目を表示

No.	表示	内容
1	ダンプ pt 2. 50V	ポテンシオメータの値を表示
2	カウント sw OFF タテ sw OFF	カウントセンサ、タテセンサの状態をON/OFFで表示
3	ジドウ1 rsw OFF ジドウ2 rsw OFF	リモコンの自動1ボタン、自動2ボタンの状態をON/OFFで表示
4	イチジテイシ rsw OFF	リモコンの一時停止ボタンの状態をON/OFFで表示
5	フィルムギレ ウエsw OFF フィルムギレ シタsw OFF	フィルムギレウエセンサ、フィルムギレシタセンサのON/OFFで表示

運転に必要な装置の取扱い

入力確認が終わったら、「表示切替」ボタンを3回押して、「作業画面LED」を点灯させてください。

◆出力チェックモードの表示

- ・「表示切替」ボタンを4回押すと設定モードに入ります。
- ・バッテリー電圧も表示しますので、モータや油圧出力の確認にご利用ください。

シュツリョク チェック モード

⚠ 注意

出力チェックはセンサの状態(ON/OFF)に関係なく出力されます。機械が破損するおそれがありますので、ベールを載せたまま動作させる等の危険行為はやめてください。

⚠ 注意

怪我をするおそれがありますので、「+」ボタン、「-」ボタン操作の際は、機械の周りに人がいないことを確認してから行ってください。

- ・以下のボタンで出力の確認をしてください。
 - ・「アームはなす」ボタン：次の項目を表示
 - ・「アームつかむ」ボタン：前の項目を表示
 - ・「+」ボタン、「-」ボタン：各出力をします。

No.	表示	内容
1	テーブル バッテリー 14.4V	「+」ボタンを押している間、テーブル油圧モータ正転出力します。なお、テーブルをダンプさせた状態で回転させると、テーブル油圧モータ正転出力と低速バルブ出力をします。 「-」ボタンを押している間、テーブル油圧モータ正転出力と低速バルブ出力をします。
2	テーブル ギャク バッテリー 14.4V	「+」ボタンもしくは「-」ボタンを押している間、テーブル油圧モータ逆転出力をします。
3	ダンプ バッテリー 14.4V	「+」ボタンを押している間、ダンプシリンダー伸び出力します。 「-」ボタンを押している間、ダンプシリンダー縮み出力します。
4	アーム バッテリー 14.4V	「+」ボタンを押している間、アームシリンダー伸び出力します。 「-」ボタンを押している間、アームシリンダー縮み出力します。
5	パトライト	「+」ボタンもしくは「-」ボタンを押している間、パトライト回転出力をします。

出力確認が終わったら、「表示切替」ボタンを2回押して、「作業画面LED」を点灯させてください。

運転に必要な装置の取扱い

◆アグポートチェックモードの表示

アグポートアタッチを搭載した際に利用します。

アグポートアタッチ取扱説明書を参照してください。

◆メーカー設定モードの表示と変更方法

- ・「+」ボタン「-」ボタンを押しながら、コントロールボックスの電源を入れてください。

※無闇な設定変更は動作不良に繋がりますので、絶対にしないでください。

また、変更する場合は販売店にご相談ください。

メーカー セッテイ モード

- ・以下のボタンで設定変更してください。

「アームはなす」ボタン：次の項目を表示 「+」ボタン、「-」ボタン：値を変更

「アームつかむ」ボタン：前の項目を表示

No.	表示	内容
1	スロー カイテン 0. 5s ショキチ 0. 5s	巻き始めに低速回転を行います。 低速回転の時間を設定できます。
2	テーブル タテ コテイ 1. 0s ショキチ 1. 0s	縦センサが反応してから、テーブルの低速回転を止める までの時間を設定します。
3	テーブルサイショウ 0. 50V ショキチ 0. 50V 2. 50V	自動動作や手動動作時の「テーブル ヲ サゲ」の警告を 出すために、テーブルが積み込み(戻り)きっている位置 を検出する必要があります。 その位置の最小角度を設定できます。
4	テーブルサイダイ 4. 20V ショキチ 4. 20V 2. 50V	たておろしなしの設定のとき、テーブルが最大位置まで 荷降ろし方向に倒れます。 その最大角度を設定できます。
5	テーブル コテイ 0. 50V ショキチ 0. 50V 2. 50V	たておろしありで自動運転2をするとき、テーブルを設定 角度まで上げて縦に固定します。 その角度を設定できます。
6	デンアツ チェック 10. 0V ショキチ 10. 0V 14. 4V	ラッピング中に電圧が設定値より下がると、低電圧警告を 表示します。 その電圧を設定できます。
7	タテ ヅカミ 0. 8s ショキチ 0. 8s	設定モードの「ソフトベール」が「OFF」の設定の際に、 アームでベールを縦掴みする時間を設定できます。
8	アーム ベール ヨケ 1. 0s ショキチ 1. 0s	積み込みの際、機体にかかるショックを和らげるため、 積み込み動作を一旦停止させ、アームを上げます。 そのアームを上げる時間を設定できます。

運転に必要な装置の取扱い

No.	表示	内容
9	フィルム ブラシ 0. 5s ショキチ 0. 5s	たておろしありで自動運転2を行う際、テーブルを固定角度までダンプさせてもテーブルが固定されないように事前にテーブルを少し回転させます。 そのテーブル回転時間を設定できます。
10	BU ダンプ pt OFF ショキチ OFF 5. 0s	ポテンショメータに不具合が起こった場合、正常な自動動作、手動動作ができなくなります。 テーブルがダンプしきった位置から戻りきった位置までの設定時間(5秒)を入力することで、一時的に自動運転1、自動運転2の動作はできるようになります。 しかし、初期位置ボタンやたておろしはできません。 〈作業中画面〉 マクスウ：1 6 コスウ：3 ダンプ バックアップ ※そのとき、ポテンショメータのセンサ警告は出なくなり、ダンプシリンダーが設定時間動くことで正規位置まで動いたと認識しますので、PTO回転数を370～400min⁻¹まで上げて作業してください。 また、新しいポテンショメータに交換した後は必ず設定を「OFF」にしてください。
11	BU カウント sw OFF ショキチ OFF 3. 5s	カウントセンサに不具合が起こった場合、正常に巻数をカウントできなくなります。 タテセンサにカウント機能を持たせ、低速での1回転当たりの時間(3. 5秒)を設定することで、一時的に自動運転1、自動運転2の動作はできるようになります。しかし、初期位置ボタンやたておろしはできません。また、テーブルがダンプしていても正転ボタンを押すとテーブルが正転します。 〈作業中画面〉 マクスウ：1 6 コスウ：3 カウント バックアップ ※新しいカウントセンサに交換した後は必ず設定を「OFF」にしてください。

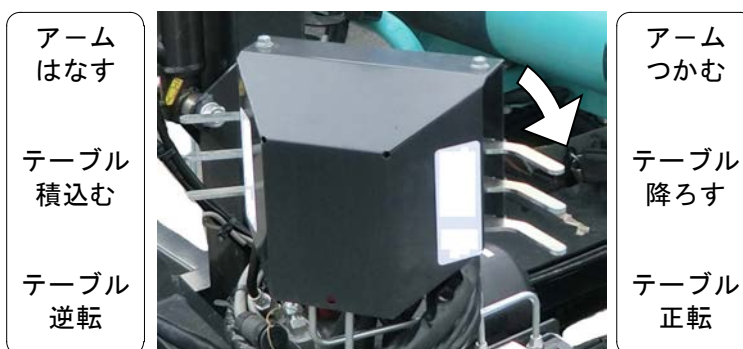
運転に必要な装置の取扱い

No.	表示	内容
12	BU タテ sw OFF ショキチ OFF	タテセンサに不具合が起こった場合、たておろしができなくなります。 タテセンサの代わりにタイマを利用することで、一時的に自動運転1、自動運転2の動作はできるようになります。 〈作業中画面〉 マキスウ：1 6 コスウ：3 タテ バックアップ ※新しいタテセンサに交換した後は必ず設定を「OFF」にしてください。
13	インチング ON ショキチ 0. 05s	たておろしの際、テーブルを持ち上げてインチング回転させ、たてに固定します。そのインチングの高速回転時間を設定できます。
14	インチング OFF ショキチ 0. 15s	たておろしの際、テーブルを持ち上げてインチング回転させ、たてに固定します。そのインチングの低速回転時間を設定できます。
15	リモコンヨコハウシュツ OFF ショキチ OFF	放出位置の角度設定をすると、オプションのリモコンを利用してよこおろし自動運転2を行った際、テーブルが最大位置まで荷降ろし方向に倒れてから、設定位置でベールを放出します。

設定変更が終わりましたら、コントロールボックスの電源を入れ直してください。

8. 手動バルブの取扱い

◆電装トラブル等で自動作業ができない場合、油圧バルブのレバー操作を行うことで手動作業することができます。各レバーの動作はステッカーにて表示しており、レバーを手前に引くことで油圧動作が行えます。



！ 警告

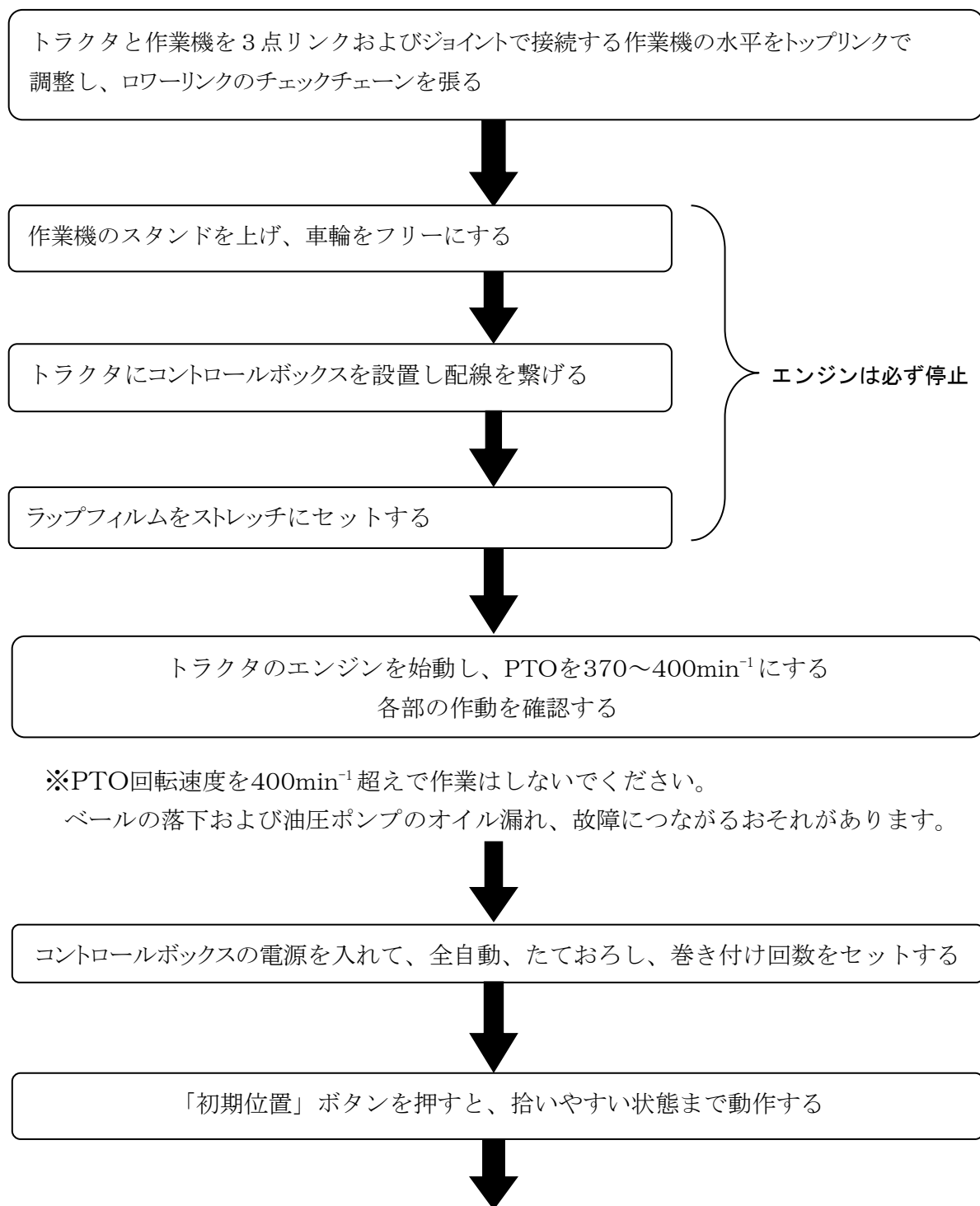
この操作は、あくまで電装トラブル等が起きた際の応急対応として使用してください。過度に使用するとオイル漏れなどの症状が出る可能性があります。使用時は周囲に人がいないことを確認し、自身の安全を確保しながら操作してください。これを怠ると、重大な傷害事故につながるおそれがあります。

作業方法

1. 作業手順と要点

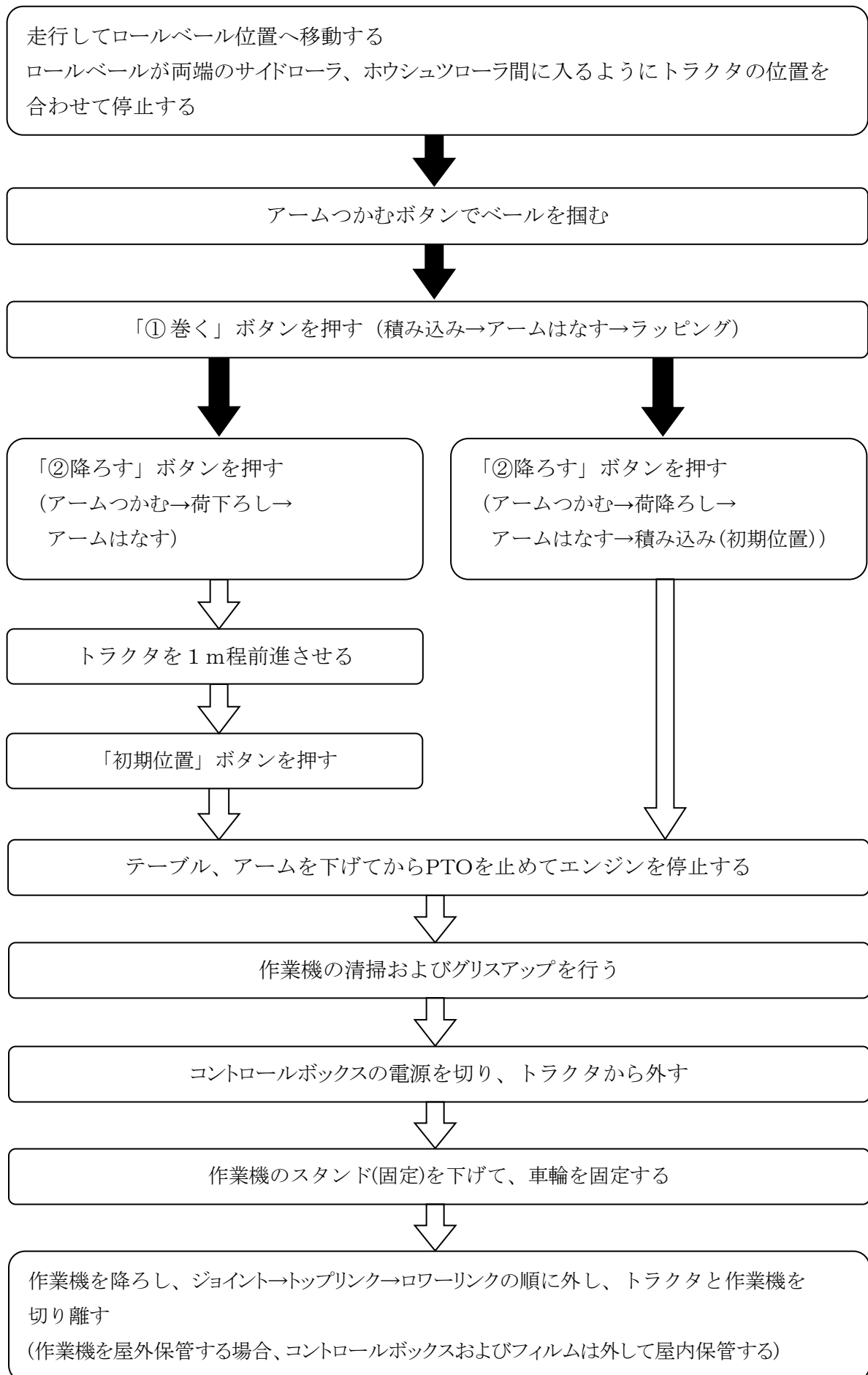
⚠ 注意

コントロールボックスの電源が入っている場合は、コントロールボックスやリモコンのボタンを押すと動作します。機械に近づく際は必ずPTOを切り、トラクタのエンジンを停止してください。



作業方法

連続作業



作業方法

2. 自動運転を行う

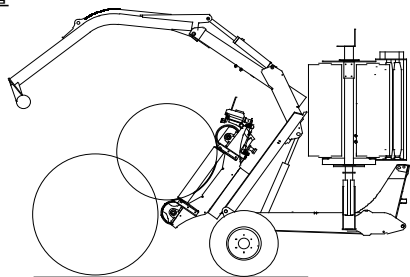
- ①コントロールボックスでたておろし有無を選択してください。

(たておろしをする場合コントロールボックスの「たておろしLED」が点灯します)

- ②PTOを回します。(アイドルリング)

- ③コントロールボックスの「初期位置」ボタンを押すと積み込み姿勢になります。

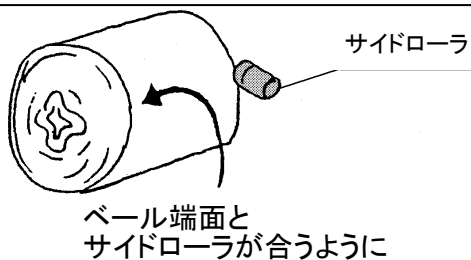
初期位置



- ④バールの端面とサイドローラの位置がおおよそ合うように進入します。

- ⑤最後までダンプします。

この時、バールの端面とサイドローラの位置が合うようにしてください。



- ⑥PTO回転を $370 \sim 400 \text{ min}^{-1}(\text{rpm})$ にセットしてください。

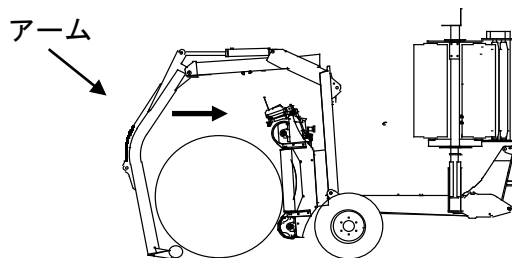
警告

$400 \text{ min}^{-1}(\text{rpm})$ 以上で作業しないでください。バールの落下および油圧ポンプのオイル漏れ、故障に繋がる可能性があります。

- ⑦アームを縮めます。

(リリースバルブの音がするまで)

(ボールが寄ってきます)



- ⑧ボールとテーブルの位置関係を確認します。

- ⑨「①巻く」ボタンを押します。

積み込みを開始し、巻き付け完了まで自動で行います。

警告

本機のボール積み込み能力は最大600kgです。それ以上重いボールを持ち上げるのは転倒の危険がありますので、絶対にやめてください。

- ⑩ボールを降ろす場所まで移動します。

- ⑪「②降ろす」ボタンを押します。

たておろしなし設定の場合、ボールを放出後、テーブルが戻り、次の作業のスタンバイ状態まで自動で行います。

- ⑫たておろしあり設定の場合、回転させるとテーブルがボールに接触するので1m程トラクタを前進させます。

- ⑬「初期位置」ボタンを押すと、テーブルが戻り、次の作業のスタンバイ状態まで自動で行います。

注意

自動運転を行う前に、周囲に人、物がないか安全を確認してください。これを怠ると、重大な傷害事故につながるおそれがあります。

作業方法

自動運転中に動作を停止する場合、「一時停止」ボタンを押すと（LED点灯）停止することができます。電源を切らなければ、停止した状態がメモリされているため、再度「一時停止」ボタンを長押しすると（LED消灯）続きから作業を再開します。

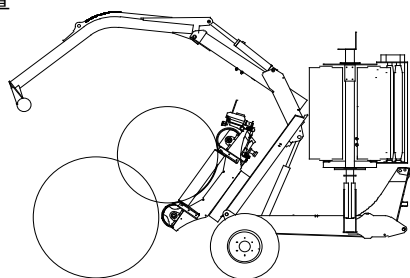
また、その他のボタンを押すことで、リセットされ、メモリが消去されます。

3. 手動運転を行う

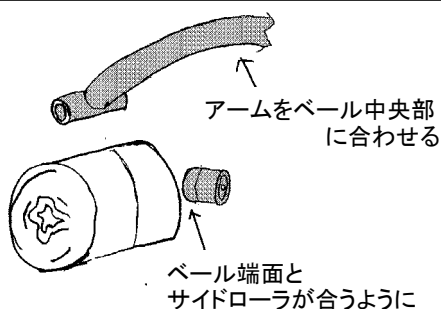
A) 積み込み

- ①PTOを回します。（アイドリング）
- ②コントロールボックスの「初期位置」ボタンを押して積み込みスタンバイ状態にしてください。
- ③アームを伸ばします。
- ④少しダンプします。

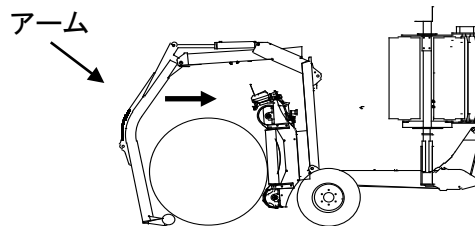
初期位置



- ⑤アームがベール中央部に合うように進入します。
 - ⑥最後までダンプします。
- この時、ベールの端面とサイドローラの位置が合うようにしてください。

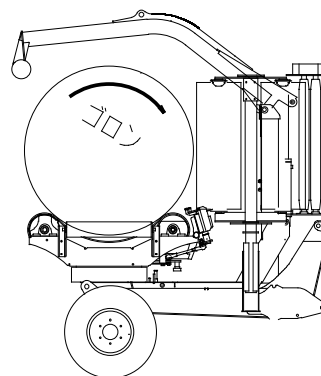


- ⑦アームを縮めます。
（ベールが寄ってきます）



- ⑧リリースバルブの効く音がしたら、ダンプフレームを持ち上げます。
アームを縮め過ぎるとベールが変形してしまうため、作業に慣れてきたらリリースバルブが効く前にアームを止めてください。

- ⑨ベールがターンテーブルに載ります。



警告

- ローリンクを完全に下げてから積み込みを行ってください。
これを怠ると転倒の危険があります。
- 本機ベール積み込み能力は最大600kgです。それ以上重いベールを持ち上げるのは転倒の危険があります。

作業方法

B) フィルム巻き付け

- ①コントロールボックスの「①巻く」ボタンを押してください。

(PTOは $370 \sim 400 \text{min}^{-1}(\text{rpm})$ 以下)

⚠ 危険

運転中は絶対に近づかないでください。これを怠ると、重大な傷害事故につながるおそれがあります。

PTO回転を $400 \text{min}^{-1}(\text{rpm})$ 超えで作業しないでください。高速回転にするとベールが飛び出したり、機械が振動するなどして大変危険です。

また、油圧ポンプのオイル漏れ、故障につながる可能性があります。

- ②回転中にフィルムが切れたり、無くなった場合、「一時停止」ボタンを押すと(LED点灯)停止することができます。電源を切らなければ、停止した状態がメモリされています。再度「一時停止」ボタンを長押しすると(LED消灯)続きから作業が再開されます。
- また、その他のボタンを押すと、作業がリセットされ、メモリが消去されます。

- ③カウントが終わると自動的にテーブルが停止します。

④追い巻きする場合

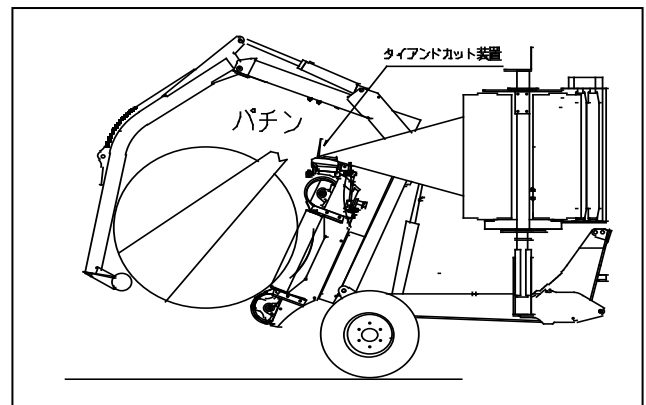
- (ア) いったんPTO回転をアイドリング状態にする。
- (イ) アームを縮める。
- (ウ) コントロールボックスの「回転」ボタンを押す。
- (エ) ボタンを押している間、追い巻きを行う。
- (オ) 追い巻きが完了する。
- (カ) 「初期位置LED」が点灯するタイミングでボタンを離す。

C) ベールを降ろす

⚠ 警告

谷側への積み降ろしは転倒の危険がありますので絶対にしないでください。

- ①コントロールボックスの「初期位置LED」が点灯していることを確認する。
- 点灯していない場合は、「回転」ボタンを押してテーブルを点灯するまで回転させる。
- ②荷降ろしをする。
- 途中でタイアンドカット装置が働き、フィルムが切断保持されます。



- ③アームを伸ばす。
- ④コントロールボックスの「初期位置」ボタンを押して積み込みスタンバイ状態にする。

たておろしをする場合は、コントロールボックスの「②降ろす」ボタンを押してください。この場合、コントロールボックスの「たておろしLED」が点灯していることを確認してください。

ベールはなるべく水平なところで降ろしてください。

やむを得ず、傾斜地で降ろす場合は、等高線に対して直角に降ろしてください。

作業方法



注意

二人以上の共同作業では、お互いに声をかけ合うなどして安全を確かめ合いながら作業してください。

これを怠ると、傷害事故につながるおそれがあります。

4. 移動時の注意

移動する時は、以下のことを守ってください。

①アームを縮める。

②コントロールボックス「初期位置LED」点灯を確認する。

点灯していない場合は「回転」ボタンを押してテーブルを点灯するまで回転させる。

③PTOを切る。

5. 収納時の注意

各部に巻き付いた草などを取り除いてください。

屋外に放置する場合は、コントロールボックス・フィルムを外して雨などに濡らさないようにしてください。



注意

作業機に近づく場合は、必ずトラクタのエンジンを停止してください。

これを怠ると、重大な傷害事故につながるおそれがあります。

作業前の点検について

作業の安全確保と故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはPTOを切り、エンジンを停止して回転部が止まってから行ってください。

点 検 整 備 基 準

○点 検 ●交 換 △補 給 □清 掃

作 業 内 容		時 間						備 考
		作業前毎	作業後毎	20時間毎	50時間毎	100時間毎	200時間毎	
機 体 部	ボルト、ナットの緩み						○	作業前毎
	チェンのたるみ				○			初期2時間
	タイヤ空気圧			○				
	ターンテーブルまわり		□					
	機体の洗浄		□					
	ゴムロールの掃除		□					
	警告ラベル貼付箇所		□					
電 装	各部センサ		□					
	コントロールボックス	○						コネクタをしっかりと差し込む
	反射器、灯火装置	○						点灯確認
給 油 部	各チェン			△				注油
	ユニバーサルジョイント					△		
	油圧シリンダ支点					△		
	ロックピン					△		
	油圧オイル						●	不足の場合適宜補給
	サイドローラ			△				

注 意

特に作業条件が悪い場合や、連続作業で稼働率が高いときは適宜規定の時間より早めに点検整備してください。

簡単な手入れと処置

！ 警告

点検・調整をするときは必ずPTOを切り、エンジンを停止してください。
これを怠ると重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 油圧作動油について

点検、補給はエンジン始動前に行ってください。

不足している場合は、適時補給してください。

JIS K 2213 添加タービン 1 号または 2 号相当品をご使用ください。

ISO VG68 タンク容量 4ℓ

注 意

- 不燃性作動油は使用できません。
- 寒冷地では耐寒性作動油をご使用ください。
- 工場出荷時はシェルテラスオイル68を使用しています。
- 長時間、連続作業を行った場合、油温上昇のため油圧効率が悪くなり、動作が遅くなる場合があります。その場合、作業を止めて油温を下げると復帰します。

2. チェンの調整

テーブルローラ駆動、油圧ポンプ駆動の
2箇所にてチェンを使用しています。

チェンは初期に伸びますので、2時間使用
後に張り調整を行ってください。

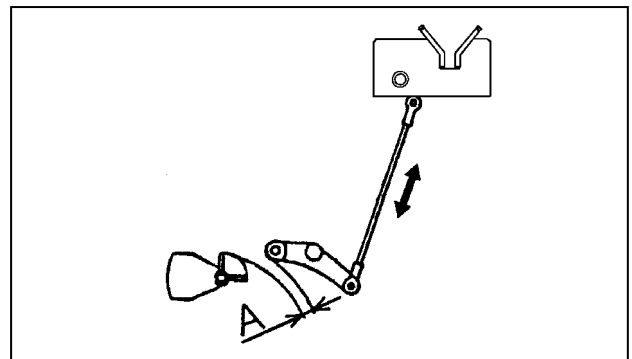


！ 警告

各チェン、各回転部分や摩擦しゅう動
部分には十分注油してください。
また、部品が摩耗したまま使い続けると、
摩擦による加熱の原因となり、場合に
よっては火災となります。

3. タイアンドカットの調整

- ベールの荷降ろし時、同装置が働いて
フィルムを切断・保持しますが、位置が
合っていないとうまく機能しません。
 - ベールの寸法によっては移動させる
必要があります。
- ①フィルムが右方にずれる場合、
装置を右に移動させます。
 - ②フィルムが左方にずれる場合、
装置を左に移動させます。
 - ③装置を移動した後、A寸法が1～2mmに
なるようにネジを調整します。



簡単な手入れと処置

4. センサエラーと調整

警告

トラクタのエンジンをかけたまま調整すると、重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずPTOを止め、エンジンを停止した状態で行ってください。

※各センサの位置は「各部の名称とはたらき(P.19)」を参照してください。

◆カウントセンサ

自動動作でカウントセンサが反応しないときに、センサエラーになります。

カイテン s w ハンノウナシ
ボタン ソウサ デ リセット

コントロールボックスのボタンを押してリセットしてください。

1. テーブルが回転しない場合

出力チェックモードで「テーブル」、
「テーブル ギャク」出力されているかを確認してください。

出力されている場合は、ハーネスとコネクタの接続を確認してください。

テーブル
バッテリー 1 4 . 4 V

テーブル ギャク
バッテリー 1 4 . 4 V

2. 油圧リリーフが効き、

テーブルが回転しない場合

テーブル回転軸のカバーを外して、
回転軸に絡まっているネット等を取り除いてください。

3. テーブルが回転するが巻数の

カウントが増えない場合

カウントセンサのコネクタを確認してください。

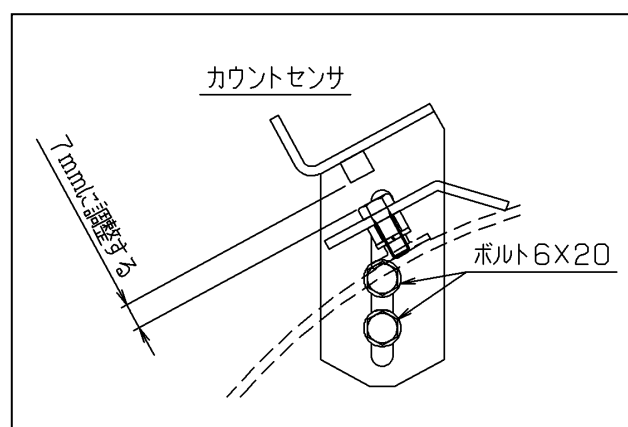
①入力チェックモードで「カウント s w」の入力がコントロールボックスに入っているかを確認してください。

カウントセンサが反応している場合は表示が「ON」、反応していない場合は「OFF」になります。

カウント s w O F F
タテ s w O F F

カウントセンサとボルト頭との距離は7mmです。

ずれている場合はボルト6×20を緩めて、調整してください。



②カウントセンサが反応しない場合、
メーカー設定モードの11の機能をご利用ください。

※メーカー設定モードの11は補助的な機能です。34ページの詳細を確認し、販売店にご相談ください。

簡単な手入れと処置

◆ポテンショメータ

自動運転でポテンショメータが反応しないときに、センサエラーになります。

ダンプ p t ハンノウナシ
ボタン ソウサ デ リセット

1. 積み込み・降ろしが動作しない場合
出力チェックモードで「ダンプ」の出力が出ているか確認してください。
出ている場合はハーネスとコネクタの接続を確認してください。

ダンプ
バッテリー 1 4 . 4 V

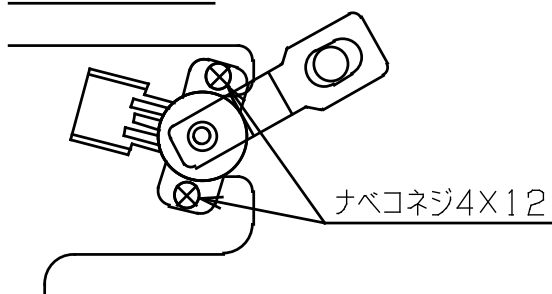
2. 積み込み・降ろし動作できるが、
停止位置になっても動作し続ける場合

- ①ポテンショメータのコネクタを確認してください。
- ②入力チェックモードで「ダンプ pt」の入力がコントロールボックスに入っているか確認してください。
ポテンショメータが反応している場合は、そのときの位置を「〇. 〇〇V」と表示します。

ダンプ p t 2 . 5 0 V

ポテンショメータの初期位置（積み込みきった状態）は $0.30 \pm 0.05V$ です。
ずれている場合は、ナベコネジ4×12を緩めて調整してください。

ポテンショメータ



- ③ポテンショメータが反応していない場合、
メーカー設定モードの10の機能をご利用ください。

! 注意

メーカー設定モードの10は緊急の機能です。機械が破損するので、テーブルを回転させる時は、必ずテーブルを積み込みきってください。

34ページの詳細を確認し、販売店にご相談ください。

◆タテセンサ

自動運転2でタテセンサが反応しないときに、センサエラーになります。

タテ s w ハンノウナシ
ボタン ソウサ デ リセット

コントロールボックスのボタンを押して、リセットしてください。

1. 油圧リリーフが効き、
テーブルが回転しない場合

- テーブル回転軸のカバーを外して、回転軸に絡まっているネット等を取り除いてください。
- 油温が上がっています。油温が下がるまで機械を休ませてください。また、油圧ポンプのタンクの油量を確認してください。

簡単な手入れと処置

2. タテセンサ位置まで回転するが

次の動作に移行しない場合

タテセンサのコネクタを確認してください。

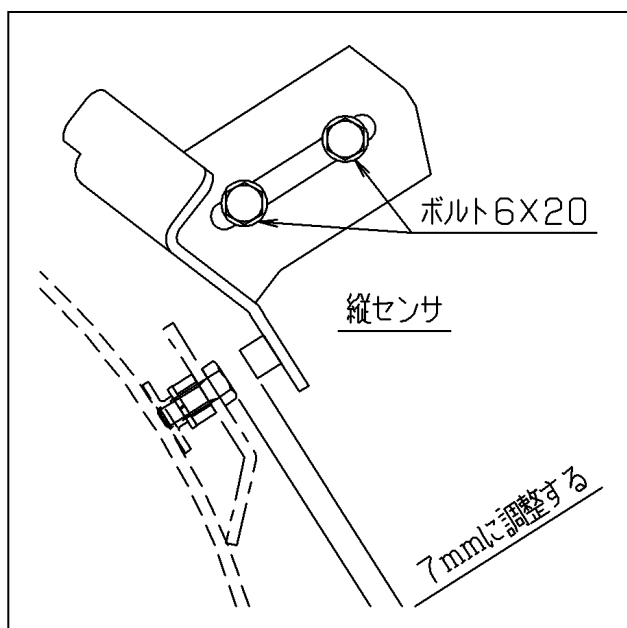
- ①入力チェックモードで「タテ sw」の入力がコントロールボックスに入っているか確認してください。

タテセンサが反応している場合は、表示が「ON」、反応していない場合は、「OFF」になります。

カウント	sw	OFF
タテ	sw	OFF

タテセンサとボルト頭との距離は7mmです。

ずれている場合は、ボルト6×20を緩めて調整してください。



- ②タテセンサが反応しない場合、メーカー設定モードの12の機能をご利用ください。

※メーカー設定モードの12は補助的な機能です。P. 35の詳細を確認し、販売店へご相談ください。

5. コネクタの保管と清掃について

コントロールボックスを外して保管する時は、機材側コネクタにゴミが混入しないように、コネクタ先端に付属のダストカバーを取り付けてください。



ゴミが入るとコネクタ内のOリングの潤滑が低下し、コネクタの接続が固くなります。

ゴミが混入した場合は、エアースプレーで掃除し、綿棒などでOリングにシリコングリスを塗布してください。

簡単な手入れと処置

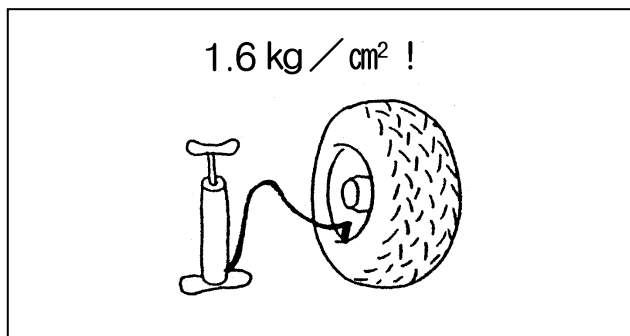
6. タイヤの空気圧

タイヤサイズは、

22×850-12 4PR です。

シーズン始めにタイヤ空気圧を測り、
足りない場合は空気を補充してください。

空気圧は157kPa (1.6kg/cm²)です。



7. ゴムロール

作業後、ゴムロールに付着した糊を軽油等で拭き取ってください。

糊が付着したままで作業を続けると、フィルムの張力が一定せず、巻きむらが起こることがあります。

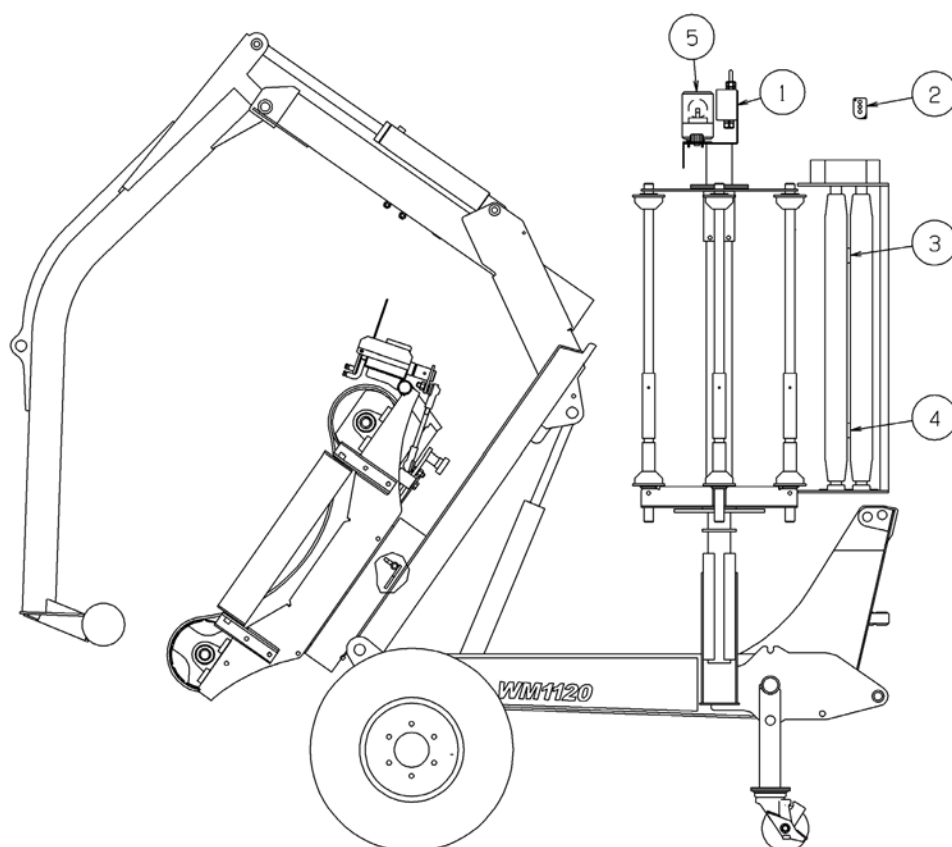
また、フィルムを束ねる際に、糊が抵抗となりフィルムが切れる、またはタイアンドカット装置で保持できなくなるおそれがあります。



オプション部品について

1. リモコンアタッチの各部名称とはたらき

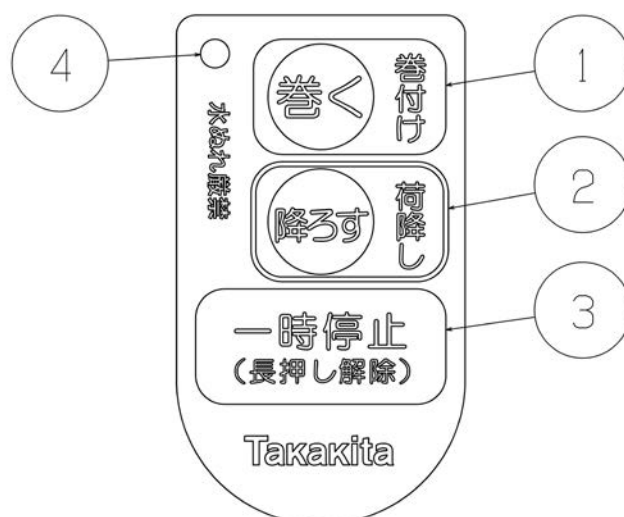
リモコンアタッチを組付けると定置で作業ができます。



番号	名 称	は た ら き
1	リモコン受信機	リモコンのボタン操作を受信します。
2	リモコン	リモートで自動作業ができます。
3	フィルムギレウエセンサ	75cmフィルムおよび上側に設置した50cmフィルムが無くなった、または切れたことを検出します。
4	フィルムギレンタセンサ	75cmフィルムおよび下側に設置した50cmフィルムが無くなった、または切れたことを検出します。
5	パトライト	コントロールボックスの電源が入っているとパトライトが点灯・回転します。そのときにリモコンのボタンを押すと、ラップマシーンが動作しますので、近づかないでください。 電球:12V5W ⚠ 注 意 パトライトを設置した状態での公道走行は、法令で禁止されています。 公道走行時は、パトライトを外してください。

オプション部品について

2. リモコンの取扱い



番号	名 称	は た ら き
1	巻くボタン	• ベールを載せた後、押すと自動運転 1 が始まります。 (アームはなす→ラッピング)
2	降ろすボタン	• 押すと自動運転2が始まります。 (テーブル逆回転→アームつかむ→荷降ろし→アームはなす→積み込み) ⚠ 注意 リモコンでたておろしすると、ベールはテーブルに接触した状態となりますので、ベールを移動させる際は、フィルムが破れないように注意が必要です。 リモコン作業時は、たておろし動作を切ることを推奨します。
3	一時停止ボタン	• 押すと、動作を一時停止します。 再度、一時停止ボタンを長押しすると動作を再開し、 その他のボタンを押すとリセットします。
4	LEDランプ	• ボタンを押している間点灯します。 ボタンを押しても点灯しない場合は、電池を交換してください。

オプション部品について

3. リモコン作業手順と要点

！ 注意

パトライトが点灯している場合は、コントロールボックスやリモコンのボタンを押すと動作します。機械に近づく際は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、PTOを切ってください。

トラクタと作業機を3点リンクおよびジョイントで接続する
作業機の水平をトップリンクで調整し、ローリンクのチェックチェンを張る

水平な場所でローリンクを降ろし、トラクタのサイドブレーキを引く

ラップフィルムをストレッチにセットする

※フィルムをストレッチ装置に通す際は、フィルムギレセンサの取り付け部にフィルムを引っ掛けないように通してください。

エンジンはず必ず停止

トラクタのエンジンを始動し、PTOを $370\sim 400\text{min}^{-1}$ にする
各部の作動を確認する

※PTO回転速度を 400min^{-1} を超えての作業はしないでください。ベールの落下および油圧ポンプのオイル漏れ、故障につながる可能性があります。

コントロールボックスの電源を入れて、全自動、巻付け回数、フィルム切れ機能を設定する
たておろし機能はOFFにする

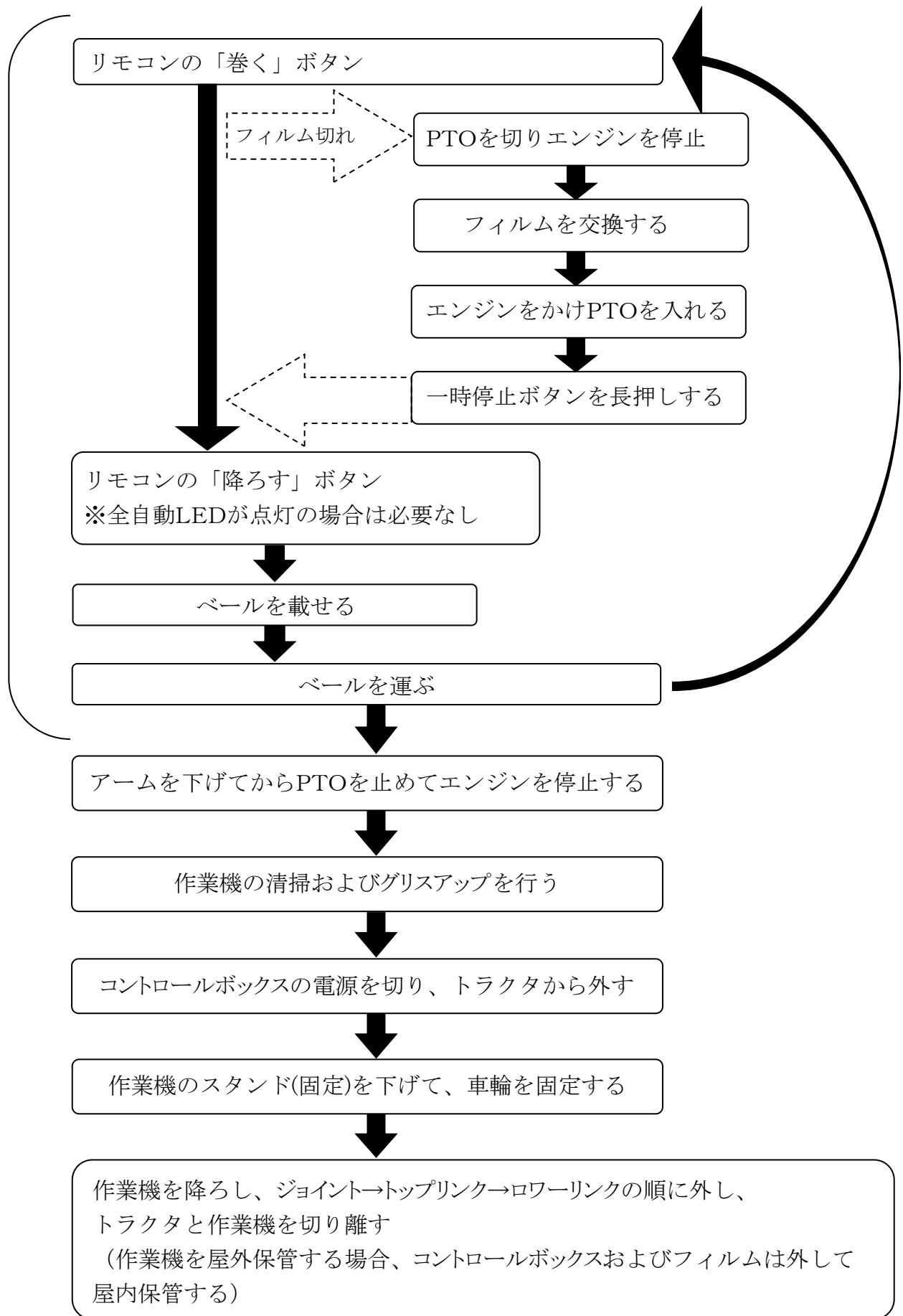
※50cmフィルムをシングルで使用する場合は、フィルムが通過しない方のフィルムギレ機能の設定をOFFにしてください。

テーブルを下げきり、アームを上げきる

テーブルにベールを載せる

オプション部品について

連
続
作
業



オプション部品について

◆リモコンの「巻く」ボタンを押すと

コントロールボックスの「巻く」ボタンと違い、積み込みやアーム上げ動作がありません。
巻き付け動作のみを行います。

◆リモコンの「降ろす」ボタンを押すと

コントロールボックスの「降ろす」ボタンと違い、ベール放出後テーブルを下げきります。

◆フィルム切れ時の一時停止

自動動作1でフィルムギレセンサが約1.5秒間反応しない場合、フィルム切れエラーになります。

フィルム	ガ	ナクナリ	マシタ
イチジテイシ	デ	サイカイ	

フィルムを交換した後、「一時停止」ボタンを長押し(1秒程度)すると1回転多く巻き付けを再開します。

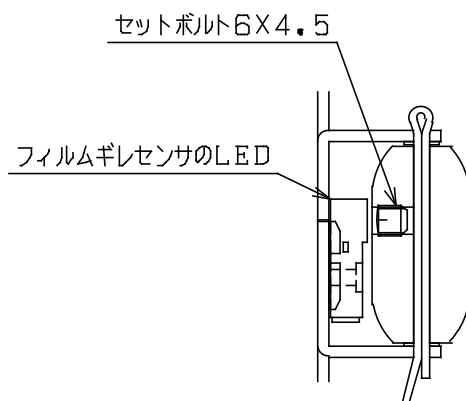
◆フィルムが切れていないのにフィルム切れエラーになる場合

フィルムギレウエセンサまたはフィルムギレシタセンサが反応していない可能性があります。
入力チェックモードで「フィルムギレ ウエsw」「フィルムギレ シタsw」の入力が
コントロールボックスに入っているか確認してください。

フィルムギレセンサが反応している場合は表示が「ON」、反応していない場合は「OFF」になります。

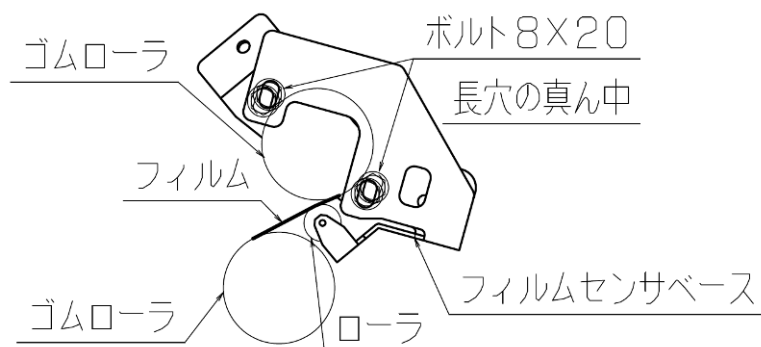
フィルムギレ	ウエsw	OFF
フィルムギレ	シタsw	OFF

また、フィルムギレセンサはセットボルト 6×4.5に反応し、センサのLEDが光ります。
光らない場合は、フィルムギレセンサのコネクタを確認してください。



オプション部品について

ローラがフィルムに当たっていない場合は、ゴムローラ両端のベアリングを固定しているボルト 8×20を緩めて、ローラがフィルムに当たるようにフィルムセンサベースをずらしてください。フィルムセンサベースの初期位置は長穴の真ん中です。



◆50cm フィルムをシングルで利用する場合

フィルムが通過しない方のフィルムギレ機能の設定をOFFにしてください。
OFFになっていないと、フィルム切れエラーが起こります。

- ・フィルムをストレッチ上側に通す場合
「フィルムギレウエキノウ」をONに、「フィルムギレシタキノウ」をOFFに設定
- ・フィルムをストレッチ下側に通す場合
「フィルムギレウエキノウ」をOFFに、「フィルムギレシタキノウ」をONに設定

- ・「表示切替」ボタンを2回押すと設定モードに入ります。

※むやみな設定変更は動作不良に繋がりますので、絶対にしないでください。

セッテイ モード

- ・「アームはなす」ボタン：次の項目を表示
- ・「+」ボタン、「-」ボタン：値を変更
- ・「アームつかむ」ボタン：前の項目を表示

No.	表示	内容
1	コスウ 1 0 0 0 コ ーボタン デ 0 コ	「リセット」ボタンを押すと0個になります。
2	フィルムギレウエキノウ ON +/-ボタン デ セッテイ	オプションでストレッチ装置上側にフィルムギレセンサを搭載できます。 フィルムギレウエセンサの機能を使用する場合は、設定をONにしてください。
3	フィルムギレシタキノウ ON +/-ボタン デ セッテイ	オプションでストレッチ装置下側にフィルムギレセンサを搭載できます。 フィルムギレシタセンサの機能を使用する場合は、設定をONにしてください。

設定変更が終わったら、「表示切替」ボタンを3回押して、「作業画面LED」を点灯させてください。また、先にベールを載せていない状態で変更した動作を確認してください。

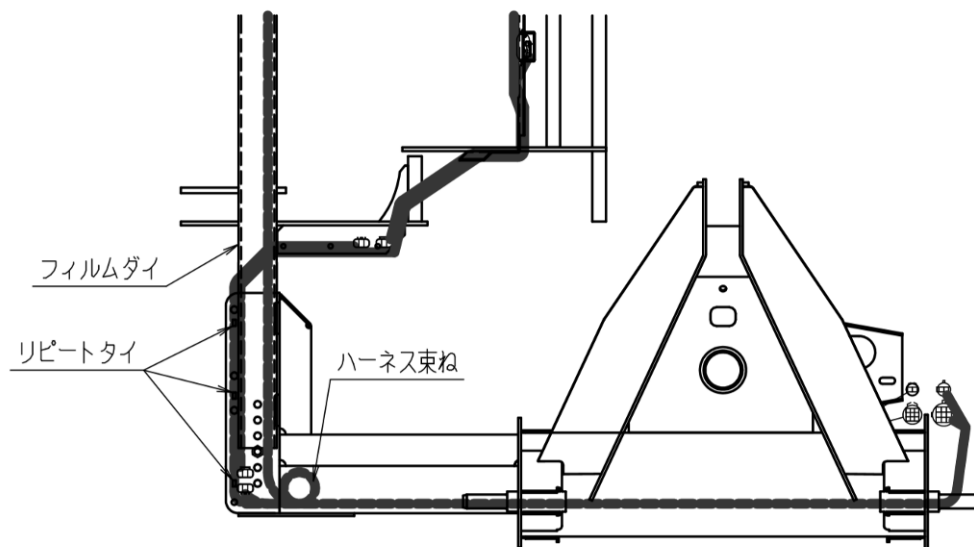
オプション部品について

◆フィルムダイの高さ調整をする際

そのまま上げるとハーネスを引きちぎる可能性があります。

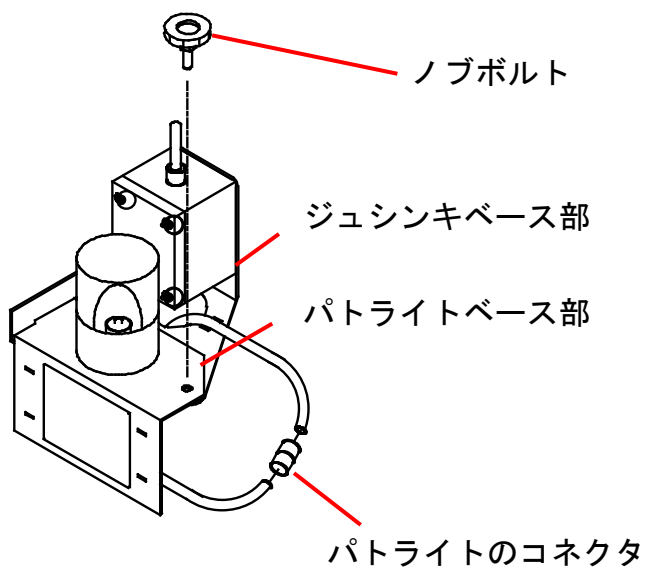
リピータイを外し、フレーム内に束ねているハーネスを伸ばしてください。

フィルムダイの調整後は、フレーム内にハーネスを束ねて、リピータイで固定してください。



◆公道走行する際

コネクタ、ノブボルトを外して、パトライトベース部を外してください。



⚠ 注意

パトライトを設置した状態での公道走行は、法令で禁止されています。公道走行時は、パトライトを外してください。

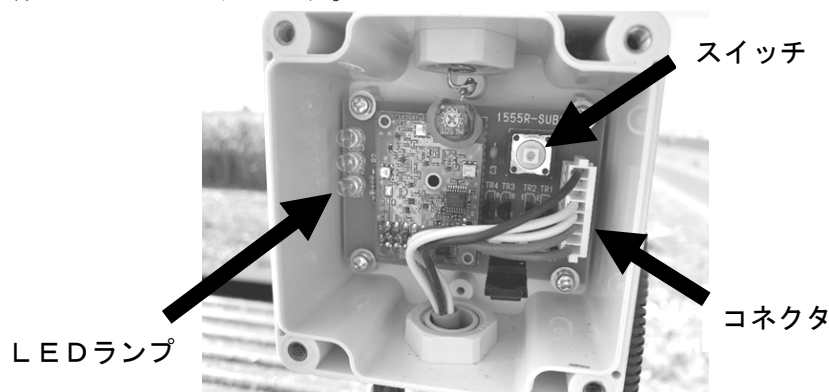
オプション部品について

◆リモコンを買い換えた時

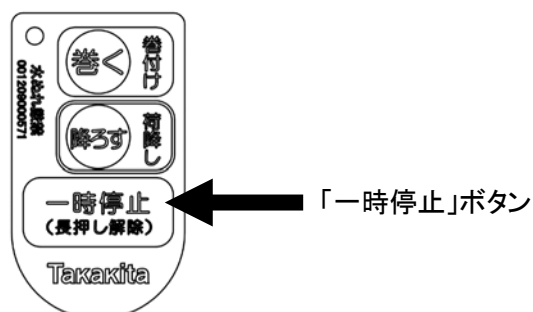
使用しているリモコンから新しいリモコンへ買い換えた時は、リモコン受信機へID登録をする必要があります。

・ID登録の手順

1. コントロールボックスの電源を入れます。
2. 受信機のカバーを外します。



3. 受信機内部のスイッチを押したまま受信機のコネクタを抜き差しして、一度受信機の電源を入れ直します。
4. LEDが2回光りますので、その後受信機内部のスイッチを離すと、ID登録モードに入ります。
5. リモコンの「一時停止」ボタンを押すとLEDが2回光りIDが登録されます。



6. ID登録が終了したら、コントロールボックスの電源を一旦切り、再度電源を入れると通常どおり使用することができます。

⚠ 警告

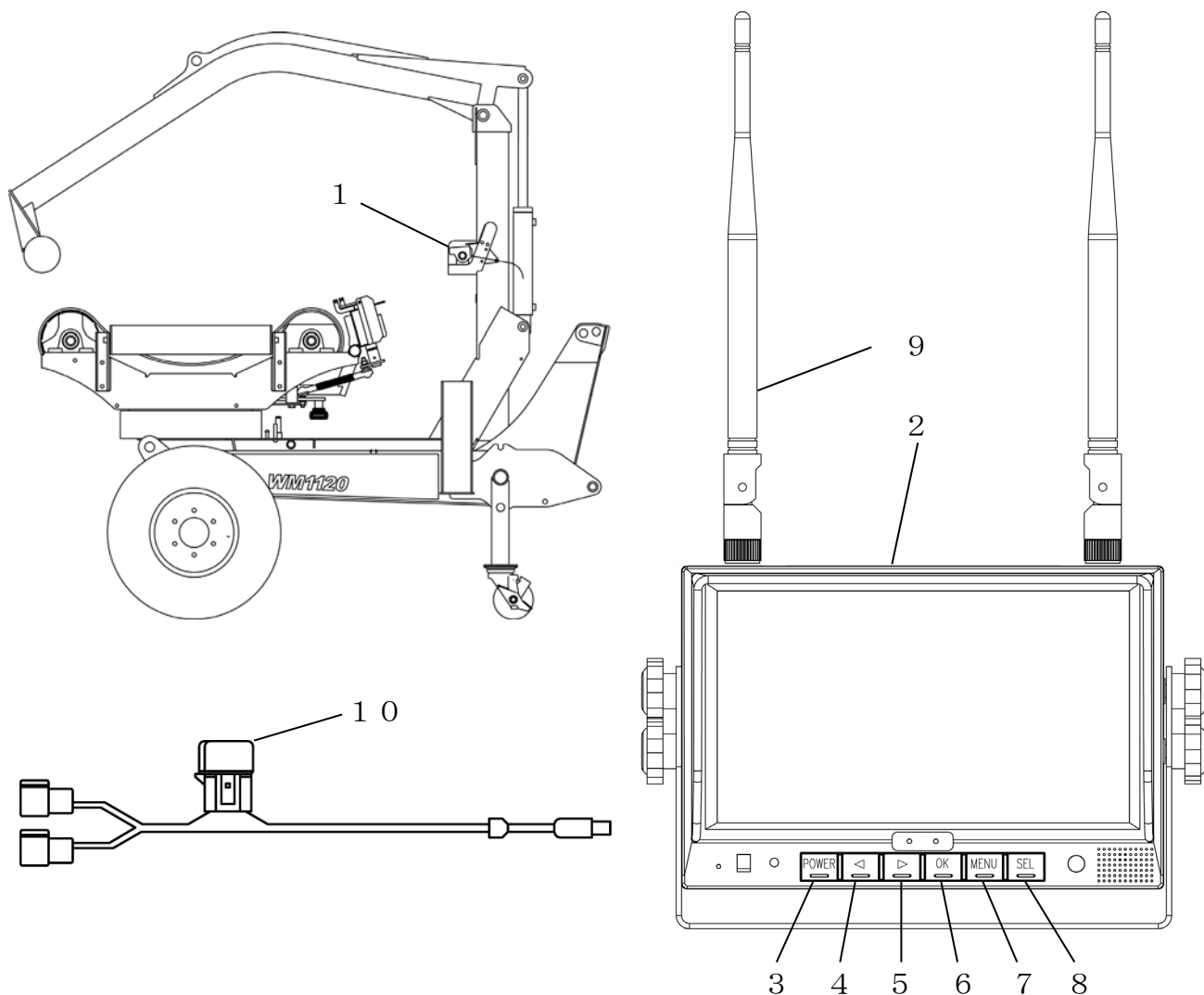
危険ですので、リモコンの増設はしないでください。

オプション部品について

4. バックモニターアタッチの各部名称とはたらき

バックモニターアタッチを組み付けるとベールを積み込む際の後方確認に役立ちます。

※無線バックモニターの表示は少し遅れて表示されているように感じることがあります。



番号	名 称	は た ら き
1	バックカメラ	後方の映像をバックモニターに送信します。
2	バックモニター	バックカメラ映像を表示します。
3	POWER	バックモニターの電源を入れます。
4	◀	音量を下げます。メニュー表示の際は選択項目を左へ送ります。
5	▶	音量を上げます。メニュー表示の際は選択項目を右へ送ります。
6	OK	現在選択項目を選びます。
7	MENU	メニューを表示します。
8	SEL	表示切換え
9	アンテナ	バックカメラからの電波を受信します。
10	ヒューズ	異常に高い電流が流れたとき、バックモニターを保護します。 (ヒューズ5A)

オプション部品について

5. トラクタへの設置

バックモニターを設置する際には、つぎの内容に配慮し設置してください。

！ 注意

路上走行時、フロントガラスに設置するのは法令で禁止されています。

バックモニターを外してください。

バックモニターを確認中でも、周囲の安全に注意してください。

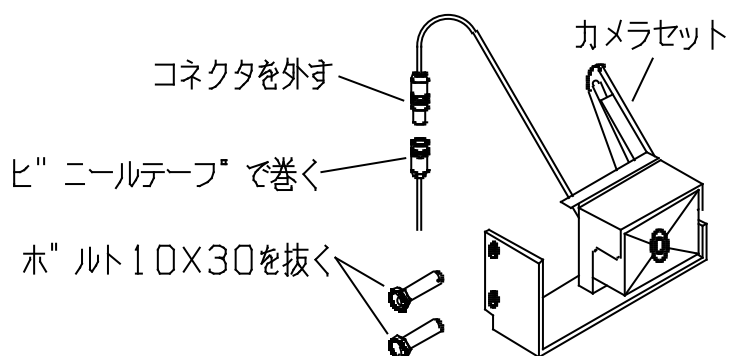
- ・バックモニターは吸盤で固定します。取り付ける前にガラス面等の埃や汚れをきれいに拭き取ってから設置してください。
- ・視界をさえぎらない位置にバックモニターを設置し、アンテナを立てた状態で根元をしっかりと固定してください。
- ・左右のアンテナの交差やアンテナの近くに携帯電話を近づけると、表示が途切れる可能性があります。
- ・吸盤に汚れが付着している場合は、水洗いして十分に乾燥させてください。

6. バックモニター作業手順と要点

「POWER」ボタンでバックモニターの電源を入れてください。「SEL」ボタンを押して「カメラ4」を表示してからコントロールボックスの電源を入れるとバックモニターに後方の映像が表示されます。

◆定置での作業をする際には

グリッパーでカメラを破損させるおそれがありますので、カメラセットを外してから作業を開始してください。



オプション部品について

◆バックカメラを買換えた時

新しいバックカメラに交換する場合は、バックモニターへペアリング登録をする必要があります。

・IDの登録手順

1. コントロールボックスの電源は切った状態で、「POWER」ボタンを押してバックモニターの電源だけを入れます。
 2. 「MENU」ボタンを押し「自動スキャン」を選択し、「カメラ1」～「カメラ3」を「OFF」、「カメラ4」を「ON」にして、「MENU」ボタンを押します。
 3. 「SEL」ボタンを押して、CAM4を表示します。
 4. コントロールボックスの電源を入れて、バックカメラを起動させます。
 5. 「MENU」ボタンを押し「ペアリング」を選択し「OK」を押します。
ペアリングには電波状態により50秒程度かかる場合があります。
- ※画面に表示されない場合は、バックカメラの電源コネクタやアンテナの差し込み、バックモニターのアンテナの差し込みが緩んでいないか確認してください。

◆バックカメラ表示を変えたい場合

画像の表示方法を選択できます。なお、初期値は「鏡像」です。

・表示の変更手順

1. 「MENU」ボタンを押し「画像反転」を選択します。
2. 「表示方法」を選択し「OK」を押して黄色表示にします。
3. 「MENU」ボタンを押します。

◆ガイドラインを消したい場合

カメラ4のみガイドラインを表示できます。なお、初期値は「ON」です。

・ガイドラインの変更手順

1. 「MENU」ボタンを押し「システム」を選択し「OK」を押します。
2. 「ガイドライン」を選択し「OK」を押します。
3. 「OFF」を黄色表示にして、「MENU」ボタンを2回押します。

不 調 診 断

各 部			
不 調 内 容	診 断	処 置	参 照 ページ
●ベールが持ち上がらない	●オイルが減っている ●ベール重量が600kgを越えている	●オイルを補給してください。 ●梱包圧を下げる等、重量を下げてください。	43 —
●動作速度が遅い	●オイルが減っている ●エンジンの回転速度が遅い	●オイルを補給してください。 ●フットアクセルでエンジンの回転数を上げてください。	43 —
●フィルムがよく切れる	●ゴムロールが汚れている ●フィルムの性質 ●テーブル回転が速い	●ゴムロールをきれいにしてください。 ●ストレッチのギアを交換してください。 ●エンジンの回転速度を下げてください。	47 25 —
●油圧リリーフが効き、テーブルが回転しない	●テーブル回転軸にネットなどが噛み込んでいる	●テーブル回転軸のカバーを外して、回転軸に絡まっているネット等を取り除いてください。	—
●タイアンドカット装置がうまく動作しない	●装置の位置不良	●左右に移動してください。	43
●ターンテーブルからベールが落ちる	●ターンテーブル回転が速い	●エンジンの回転速度を下げてください。	—
●油圧が動作しない	●手動レバーを操作し、 ①油圧が動かない場合 →バルブのゴミつまり ②油圧が動く場合 →電装の断線等の不具合	①販売店にお問い合わせください。 ②ハーネスの断線、端子の抜けをチェック。解決しない場合は販売店にお問い合わせください。	—

不 調 診 断

電 装

不 調 内 容	コントロールボックス 表示	診 断	処 置	対応
●コントロールボックスの電源が入らない	—	●電源が入っていません	●電源コードおよびヒューズを確認してください。	21 27
●コントロールボックスの入出力コネクタの接続が固い	—	●コネクタ内Oリングの潤滑低下	●エアースプレーで掃除し、シリコングリスを塗布してください。	46
●吸盤が外れる	—	●吸盤が汚れている	●水で洗って乾燥させてください。	21
●巻付け動作中に動作停止	カイテンswハンノウナシ ボタンソウサデリセット	●回転カウントセンサが反応していません	●コントロールボックスのコネクタを確認してください。 ●対応ページ参照	44 46
●ダンブ動作中に動作停止	ダンブptハンノウナシ ボタンソウサデリセット	●ポテンショメータが反応していません		45 46
●縦固定動作中に動作停止	タテswハンノウナシ ボタンソウサデリセット	●タテセンサが反応していません		45 46

リモコンアタッチ

不 調 内 容	コントロールボックス 表示	診 断	処 置	対応
●リモコンが効かない	マクスウ: /15 コスウ:0	●リモコンの電池が切れています	●リモコンの電池を交換してください。	49
		●リモコンのID登録ができていません	●リモコン受信機へID登録してください。	55
●フィルムが切れていないのに、フィルム切れエラーになる	フィルムガナクナリマシ イチジテイシデサイカイ	●50cmシングルでラッピングしている	●使用していない側のフィルム切れ一時停止機能をOFFにしてください。	53
●フィルムが切れているのに、フィルム切れエラーにならない	マクスウ:9/15コスウ:0 マキツケチュウ	●フィルム切れ一時停止機能がONになっていません	●フィルム切れ一時停止機能をONにしてください。	53

不 調 診 断

バックモニターアタッチ

不 調 内 容	診 断	処 置	対応
●バックモニターに映像が表示されない	●ペアリングができていない	●コントロールボックスの電源を入れてください。	27
	●バックカメラへ電源供給ができていない	●ペアリングを行ってください。	58
●バックモニターの映像が途切れる	●バックモニターのアンテナ・設置位置の変更が必要	●トラクタへの設置を確認してください。	57
	●バックカメラのアンテナが緩んでいる	●バックカメラのアンテナ根元を締めこんでください。	
●吸盤が外れる	●吸盤が汚れている	●水で洗って乾燥させてください。	57

この項にしたがって、再度点検しても改善しないときには販売店にお問い合わせください。

付 表

1. 主要諸元

品	名	オートラップマシーン
型	式	WM1121
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1890
	全 幅 (mm)	1680
	全 高 (mm)	2080
質	量 (kg)	500
装	着 方 法	3P直装(カテゴリ I・II)
駆	動 方 法	PTO駆動(回転速度 350～400min ⁻¹ (rpm))
適 応	ト ラ ク タ (k W { p s })	22.1～44.1 (30～60)
ダン	プシリンダ揚力 (kgf)	600
許 容	ベ ー ル サ イ ズ	直径 85～115cm×幅85～100cm
タ イ	ヤ サ イ ズ	22×850－12 4プライ

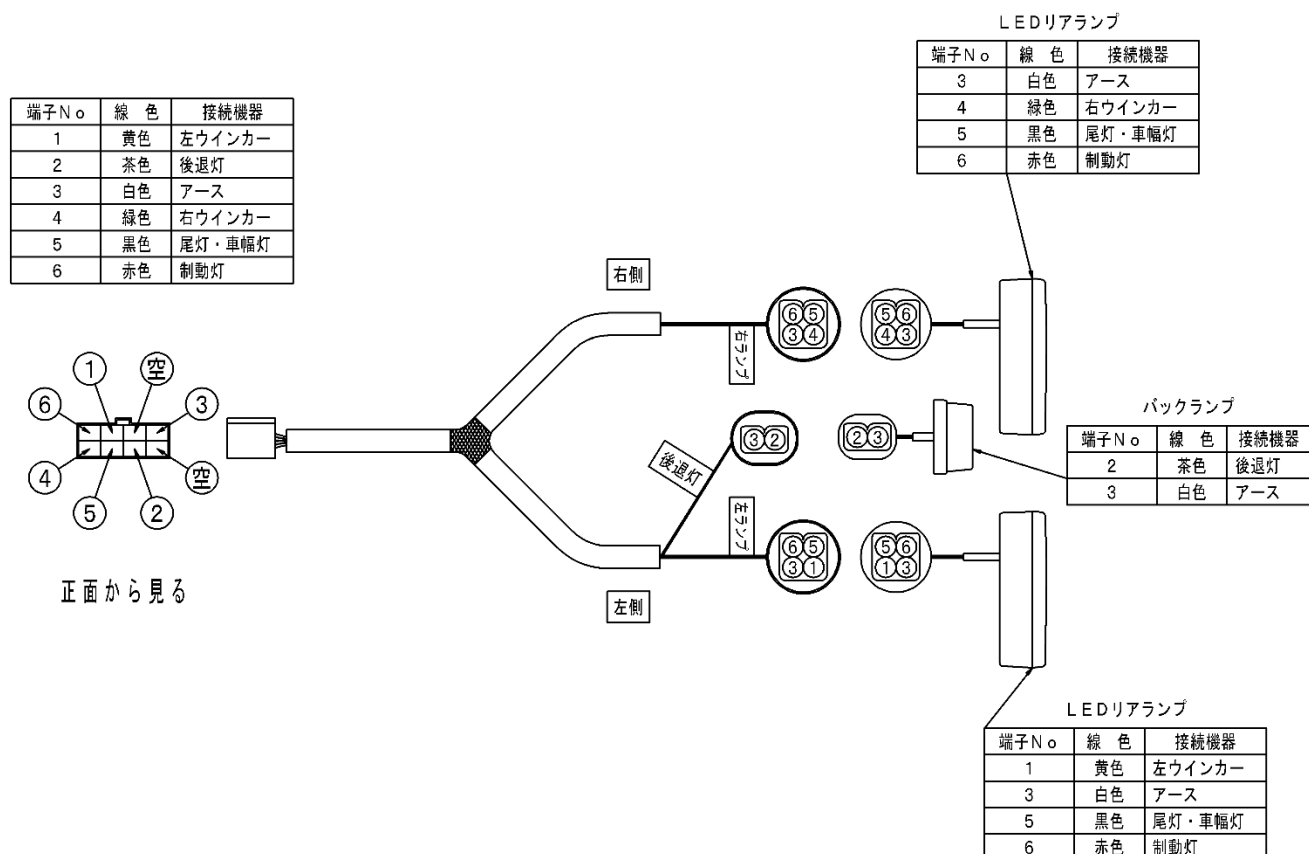
※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※質量はユニバーサルジョイント装着時の数値です。



付 表

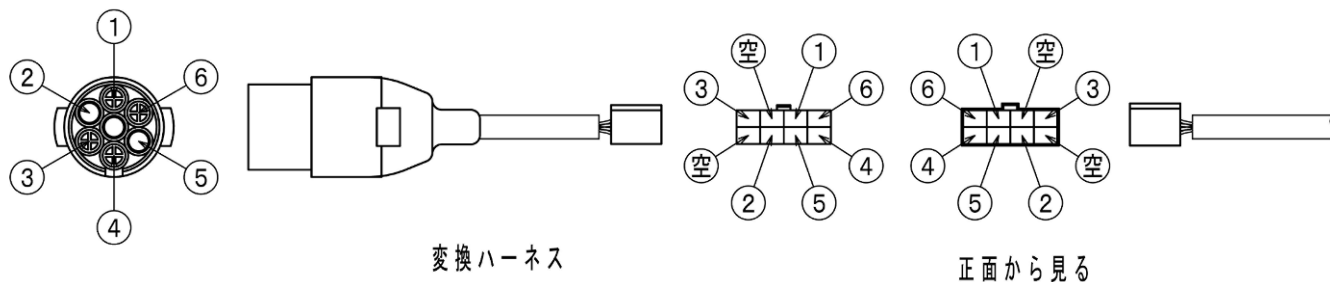
3. 保安部品電装回路図



トラクタの灯火装置用ソケットがDIN規格の場合は、付属の変換ハーネスをご使用ください。

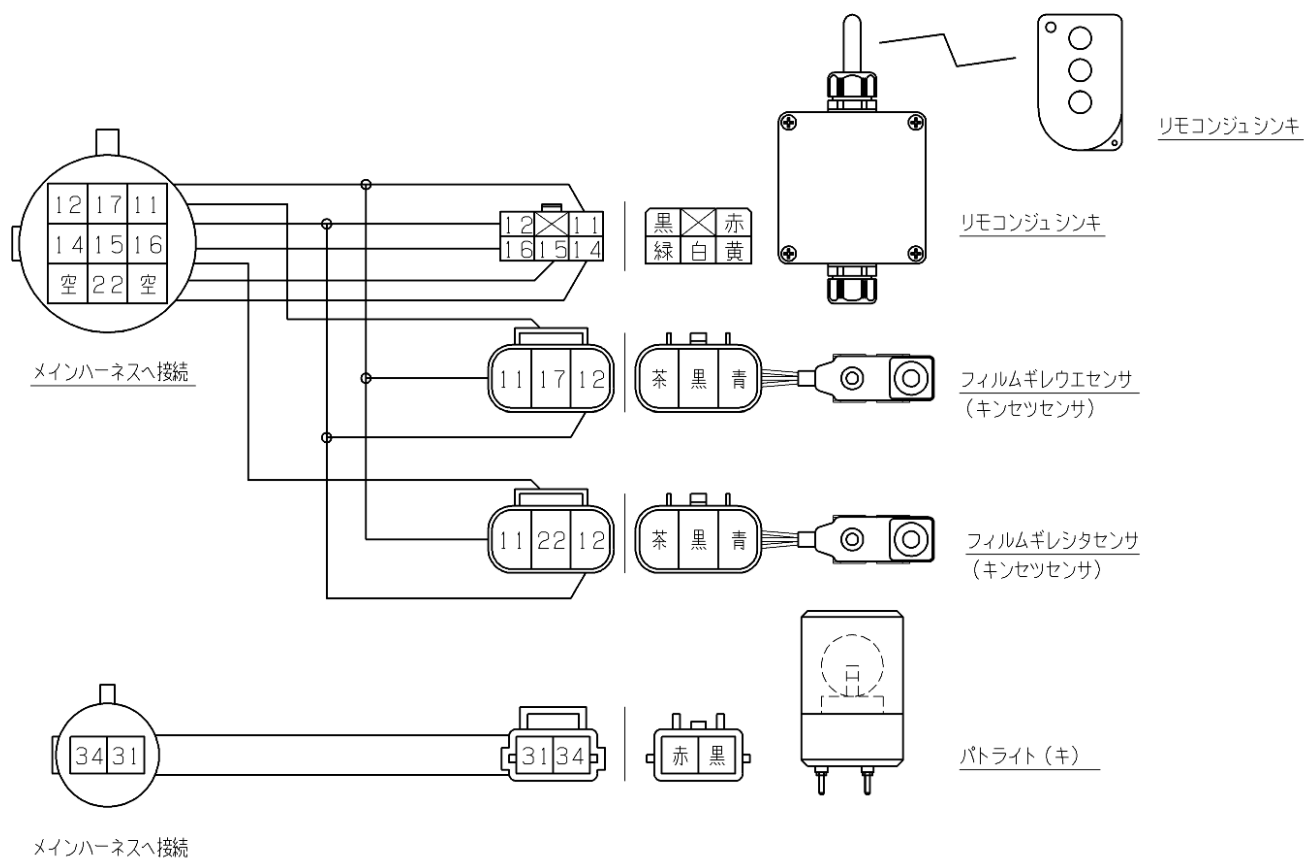
端子No	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

端子No	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

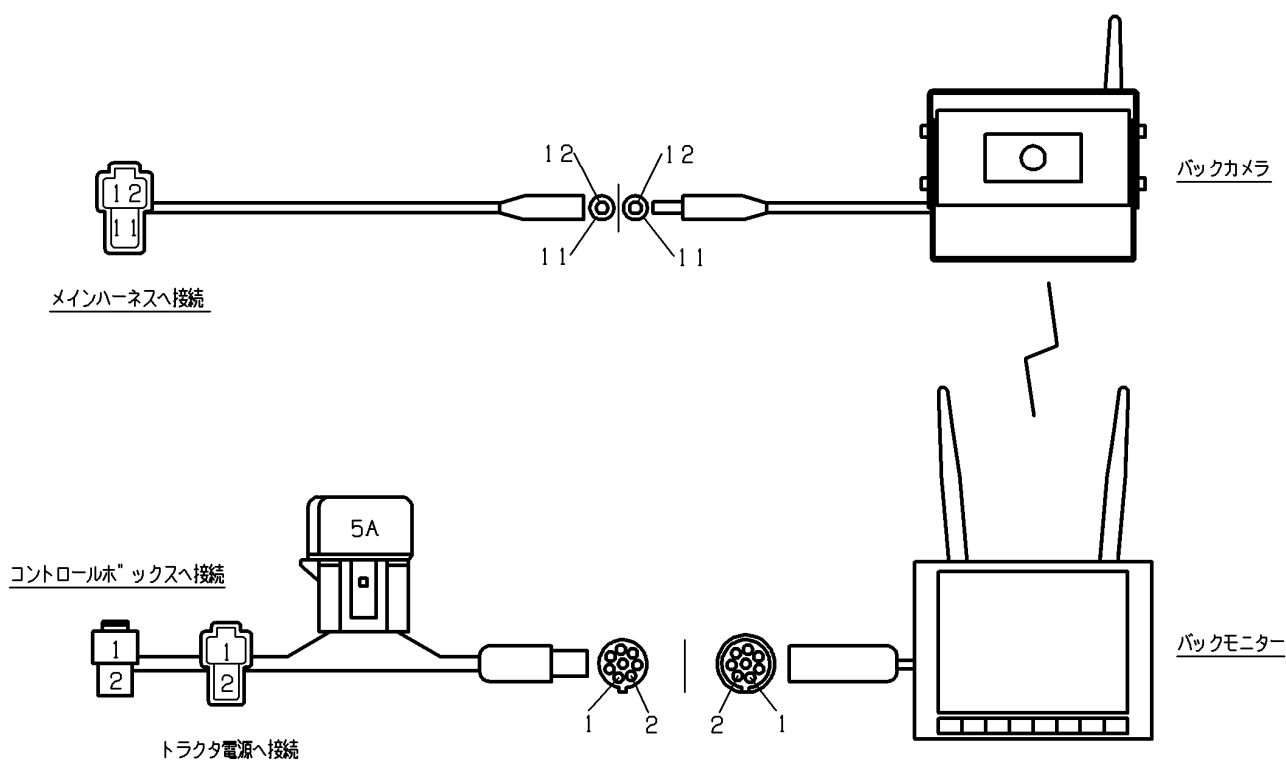


付 表

4. リモコンアタッチ電装回路図



5. バックモニターアタッチ電装回路図



6. 油圧回路図

